ミュンヘンへの道

別項の通り、オリンピックアジア地域予選を我国で開くことに日韓両国の間での意見が一致した。あとはイスラエルの回答まちというところである。

明年早々にも三国間の打ち合せが行なわれ具体的な開催についての話しあいがもたれることになるのだが、このアジア予選開催にいたるまでには多くの難問が山積している。

これらの問題、全国のハンドボールファンの協力なしにはとても解決のできない問題ばかりである。ハンドボール界の総力をあげてとりくんでいかないことには、この三十六年ぶりというよりも日本のハンドボール界にとってはじめて訪れたオリンピックというチャンスがムザムザ消えてしまうことになる。

予選まであと一年あるかないか。候補選手にはもちろん十二分に練習にはげみ、全力をつくして技術戦術の洗練に努力してもらうのはいうまでもないことだが、全国のハンドボールファンもそれぞれのところでできることをし、このチャンスを生かすようにはげんでもらいたい。予選を見にきて、全日本を応援することも一つの大きな支援である。特にこれからの日本の中心になる高校生、中学生のハンドボールに関心ある諸君は全日本のプレー、〃何か〃がかかった場合の国際試合というものがどういうものなのかということを身をもって体験しておいてほしい。単にオリンピック予選だけでなく、多くのハイレベルの試合が来年はめじろおしに並んでいる。これらを一つでも多く、時間があればではなく時間を作り、機会を作って観る、そして全日本の選手をはげまし、選手達にいかに多くのファンが期待しているかを感じさせる。このような形の支援ならば誰にでもできる筈である。

こうした誰にでもできる支援の方法を全国のハンドボールファンがとり、試合場を連日満員にするような形ができることを希望したい。このように全国のファンが支援に参加することから全国のファンのもりあがりでもって全日本をミュンヘンに送りこみたい。アジア予選の具体化はミュンヘンオリンピックを身近かなものにしたがミュンヘンへの道のりがなみたいていの険しさでないこともいっそうはっきりしたといえるだろう。

（藤本）

時評

10月盛岡で開かれた全国評議員会席上、田村会長は特に発言を求め、各都道府県協会関係者に対して一般男女の日本協会登録を促進して欲しいと要望した。これは、近年目にみえて一般男女チームの登録が減少、このままでは日本協会財政へ及ぼす影響もかなり深刻になって来ることが予想されるからだ。

一般クラブの現況は実のところつかみにくい。

日本協会の全国集計による数字ではたしかに年度ごとに減少しているのだが、各都道府県球界における一般クラブの活動はむしろ増加のカーブを描いている。

つまり、地方協会には登録するが、日本協会へは手続きしないクラブが多いということになる。今のところこうした傾向を日本協会が規制することはできず各都道府県協会、各チームの協力と、理解にたよらざるを得ない。

クラブ側の云い分は「楽しみながらハンドボールをプレイしているクラブと、強化に懸命な実業団や学生が同等では…」というのが圧倒的な声で「全国大会に出る気はないのだから」と割り切った考えも最近は強い。

日本協会としても、協会財政の基盤を支えるのだからという一言で登録を義務づける強制手段は打てない。苦しい立ち場にあるわけだが、各都道府県協会の姿勢も問題だと思う。

各都道府県協会の結束が、日本協会という団体を固め、組織しているのだということを改めて認識すべきだろう。日本協会と各都道府県協会とは別のものという考えがあるのだとしたら大間違いだ。

日本協会は地方協会にまったく補助をしないという意見も、日本協会の収支決算を見れば見当ちがいな批判であることに気ずかれるだろう。

もちろん日本協会も、地方への還元を真けんに研究しているようだ。ある理事は「一般男女が今の倍になれば登録金の割り戻しが考えられる。しかし現状は日本協会(本部)の基礎運営費を賄うのがやっとだ」と説明している。

登録さえ増えれば地方にもよいはね返りが期待できるのだ。

「今のままでは、本部へ正直な数字を報告して登録するように努力している協会がバカをみますよ」というある地方役員の声を斯界あげて謙虚に聞きなおす必要があろう。

（X）

「ハンドボール」12月号（第82号）目次

【表紙写真】関東学生秋季リーグ最終戦、日体大対中央大戦から（11月1日・駒沢屋内球技場）

撮影・山田真市

オリンピック・アジア地域予選

韓国、「日本開催」（46年11月）に同意示す

来春、イスラエルまじえ最終協議

国際ハンドボール連盟（IHF）が9月の総会で決めたミュンヘンオリンピック（47年8月）アジア地域予選を日本で開催する可能性がかなり濃くなった——。

日韓社会人（別掲）日本選手団の団長で訪韓していた荒川清美理事長は11月17日ソウルにおいて韓国協会首脳陣とオリンピック予選について会談、荒川理事長の示した「日本開催案」に対し韓国協会側も同調を約し、早急に日韓両国からイスラエル協会へ働きかけを行うことになったものである。イスラエル協会が了解すれば同予選会は来年11月日本で3ケ国総当り2回戦システム（全6試合）によって実施される。

なお、日本、韓国、イスラエルの3ケ国会議〜アジア予選打ち合せ会議〜は各国2名の代表によって来春2月25日から東京で開かれる予定。

ミュンヘン・オリンピックアジア予選について最初の話しあいともいうべき日本、韓国両協会の打合せは11月17日ソウル市のアムバサド・ホテルで、日本側荒川清美理事長、田中滋章常務理事（日韓社会人日本代表団総務・全日本実連理事長）と、韓国側洪淳泰副会長、朴応喆理事長が出席して行われた。

試合方法については、両国とも各国2回総当りに異論はなくその運営方法が〝問題点〟となった。

これまでのIHFの慣例からすればホーム・アンド・アウェイ（注・互いの国に遠征しあって1試合づつを行う）方式だが、西アジアに位置するイスラエルの転入は、経済的にこの方式の採用を困難にさせた。

つまり、日韓両国がイスラエルに一度づつ乗りこみ、さらにイスラエルが日韓へ遠征してくるのは経済的にまったく不合理で、韓国協会も日本協会と同よう「一堂に会しての開催」を考えていた。

このため会議は冒頭から両国の構想が激突する形になった。

韓国、自国開催を主張

まず、韓国側が昭和47年3月に韓国へ日本、イスラエルを招いて行う計画のあることを明きらかにした。この場合、両国へ旅費の50%を支払うという条件もつけられ滞在費はもちろん韓国側の負担。

これに対して日本側も「日本誘致」の意志を明きらかにし、滞在費はともかく旅費の一部負担は特に考えていない旨を述べ、もし、そのような条件が必要ならば30%が限度という数字をつけ加えた。

日本協会が「30%」を示したのは、IHF総会でスペイン協会が世界一区の予選会を自国で開く場合、アジア、アメリカ地域諸国には旅費の30%を支払うであろうとした提案に基くものである。

また、旅費負担額の多少によって大会誘致が左右されるのは、今後のアジア地区のハンドボール界の発展によくない前例を残すことを荒川、田中両氏は強調、さらに荒川理事長は「これまでのアジアにおける日本ハンドボール界の位置、国際球界との接触度、両国の発展状況、施設面」など日本が今回の誘致を積極的に推進した意向の裏づけを説明した。

しかし、韓国側の誘致への意欲もなみなみならぬものがあり、日本側が一つのキメ手と考えていた施設問題についても「昭和47年3月にはソウルに国際規格（40m×20m）にのっとった大体育館が完成する」ことを理由に一歩もゆずらぬ構えとなった。

日本・旅費の30%を負担

たがいの構想を強調するばかりで、いちぢは「会談決裂もしかたがない状態」（帰国後の荒川理事長談）にまでなったが、結局、韓国側も、日本の強い情熱と、これまでの両国の深い友好関係から日本開催を了承した。この間、韓国ハンドボール界の発展のため、荒川理事長から日本の世論を抑えてくれるようにといろこん願も行われるほどだった。

基本的な了解点に達したあとはただちに条件面の調整へ進んだ。

旅費の負担は、日本協会の提示した30%におちつき、滞在費は14日間13泊分を全額うけもつことになった。大会期日については韓国開催の場合に用意された「47年3月案」ではあまりにも遅すぎ、国内オリンピック委員会（NOC）との調整にも支障があるという理由で、昭和46年内に行うことに意見がまとまった。

韓国側は12月を希望したが、日本側は同時期に女子の第5回世界選手権が開かれるなどから11月を提案、韓国側も承諾。

ここで荒川理事長は日本協会の準備した「日程案」と「東京、大阪、名古屋で分散開催」の意向を伝えた。

韓国側は「東京、大阪はともかく名古屋を加えて3会場とするのは望ましくない。日程のうち1回戦（第1次リーグ）と2回戦（第2次リーグ）の間は最低72時間あける」などを要望。荒川理事長は「できるだけ希望にそうようにするが、この問題は開催国に一任して欲しい」と答えた。

日韓でイスラエル説得へ

両国間における話し合いはこれで一応終了し、イスラエル協会への働きかけを今後どのように行うかが次のテーマとなった。

その終果、日本、韓国両協会から早急に今回の会談の結論をイスラエル協会へ通知し賛同を求めることとした。

イスラエル協会が日韓案に賛否いずれの場合も、明春1月〜2月東京で三ケ国代表者会議を開き、最終的な詰めを行うことも申し合わされた。このあと決定事項、同意事項に荒川、洪両氏が署名、捺印、会談を終了した。

韓国の譲歩は友好の賜

〈解説〉荒川、田中両氏の帰国談や、11月21日の月例常務理事会における報告から推すと〝交渉〟はかなりの難航で苦戦の末に持ちかえったおみやげといってよい。

韓国側の誘致熱が想像以上に高いうえ、日本がほとんど考りよに入れていなかった旅費負担を提示しかも50%という高率であったことはいっそう両氏を苦慮させた。

本文中にもあるように決裂寸前までに対立した会談をともかくまとめ、日本誘致にもちこめたのだから日本協会としては一応満足すべき結果だといってよいが、韓国協会のオリンピックへの意欲と執着がなみなみならぬものであることは日本球界にとって改めて考えさせられる問題を含んではいないだろうか。

荒川、田中両氏も韓国協会代表の熱気にあふれた口調から、韓国球界あげてオリンピックへ一丸となっている姿勢を感じとったようで、この執念が実戦におけるファイトにおきかえられたとすれば、このつぎ〝苦戦〟するのは全日本チームということになりそうだ。

最終的には、韓国協会は、日本案への全面的な協力を約し、イスラエルに対し〝共同戦線〟をはってくれることになったのは、これまでの深い友好の賜である。

ところで、イスラエル協会は、「日韓案」をどう受けとめるだろうか。

卒直のところその成否は五分々々だ。IHF総会でイスラエル代表と面談した渡辺副会長の印象ではイスラエル協会の経済事情は悪いようで、〝30%の負担〟でその重いみこしをあげるだろうかという不安がなかでも強い。

ある消息通は「日韓がまず対戦しその勝者がイスラエルへ遠征して来て欲しい」という提案がされることも考えておかねばならぬとみている。

荒川理事長は「あくまで一堂集結を強調、イスラエルが不参を表明したり、日韓の勝者招へいなどといって来た場合はIHFへ提訴も辞さない」と強気である。

ヨーロッパ予選が47年3月スペインで16ケ国集結、アメリカ大陸予選もカナダまたはメキシコに集結して行われる公算が強いといわれているのは日韓案にとって有利なデータであろう。

来春の三国会議で一切のとりきめが行われるが、韓国のバックアップを得た日本側のイスラエルへの働きかけが〝焦点〟だ。日本開催が決まっても日程、使用球など解決すべき問題は少なくない（S）

東京・大阪・名古屋で予選 日本開催の場合

日本協会月例常務理事会は11月21日東京で開かれ、オリンピック予選問題について協議した。

荒川理事長、田中（滋）常務理事の報告を聞いたあと、早急にイスラエル側へ「日本開催」に同意するよう手をうつことになった。

さらに、具体的な運営方法についても検討され、荒川理事長の「46年11月14日を第1戦とし、28日までの間に全6戦を消化、東京（東京体育館）のほか大阪、名古屋でも試合を行う」という提案を異議なく承認、大阪・愛知両協会と折しようすることになった。日程案は次のとおり。

▽第1戦（11月14日・東京）▽第2戦（16日または17日・東京）▽第3戦（20日または21日・大阪・日本対韓国）＝以上第1次リーグ▽第4戦（23日・名古屋・日本対イスラエル）▽第5戦（26日・東京）▽第6戦（28日・東京）

また日本協会では、来春の三国会議（東京）で開催が正式決定した場合、遅くとも4月中旬までに「オリンピックアジア地域予選組織委員会」（仮称）を編成、同予選の運営一切を担当させることになった。

第17回
全日本選抜選手権展望

12月18〜20日・東京体育館

○……日　程……○

▽第1日（12月18日・金）

15時	（男）	ワクナガ薬品—埼玉教員ク
16時20分	（女）	大洋デパート—全日本学生
17時30分	（男）	大崎電気—日体大
18時50分	（女）	日本ビクター—大崎電気

▽第2日（12月19日・土）

14時	（女）	全日本学生—日本ビクター
15時10分	（男）	日体大—ワクナガ薬品
16時30分	（女）	大崎電気—大洋デパート
17時40分	（男）	埼玉教員ク—大崎電気

▽第3日（12月20日・日）

12時40分	（女）	大崎電気—全日本学生
13時50分	（男）	日体大—埼玉教員ク
15時05分	（女）	大洋デパート—日本ビクター
16時15分	（男）	大崎電気—ワクナガ薬品

※NHKTVは20日15.30—17.30（予定）

今シーズン活躍した男女4チームによる年末のビッグエベント第17回全日本選抜選手権大会は12月18日から20日までの3日間、東京千駄ヶ谷の東京体育館で行われる。

来年度は、この時期に全日本総合選手権が移行、全日本選抜も模様替えすることになっており、現行のいわば〝最後の大会〟だ。

また、男子はオリンピック候補の追加選手、女子は来冬の第5回世界選手権（オランダ）候補選手選考をそれぞれ兼ねている。

優勝の行くえを探ってみよう（編集部）

大崎、ワクナガ追う日体大

男子はまったくどの試合も息が抜けない。どこにも優勝のチャンスがある。

全日本総合（8月・和歌山県）に優勝し、2連勝を狙う大崎電気（埼玉）は、国体では若手中心の編成で全愛知に敗れてしまった。それだけにこの大会へかける気力はすばらしい。近森の渡独などもあって部員が12人とへったため大事をとって12月の東京選手権にも姿を見せず満をじしている。

学生界無敵の日体大（白）が社会人の強豪にどう挑むか今大会の焦点だ。〜全日本総合準決勝日体大対大崎電気戦から〜

主力はいぜん近藤、東、飯田、のオリンピック候補トリオとベテランの井上、籏野、西村らでエース飯田の豪快なシュートが際立つ。守備面でもオリンピック候補のGK下里がますます安定しており、谷口、佐藤、沢田、林らの若手がフルに動ければ優勝候補のやはり最右翼だろう。

大崎を激しく追いあげているワクナガ薬品（大阪）が、公式戦2度目の対決をする。初顔合せの全日本総合決勝では延長の末12—14で大崎に敗れているが、国体の優勝をはさんで順調にそのチーム力を引きあげている。

木野、早川のオリンピック候補が、攻防両面で〝両輪〟となっており、しかも彼らに配する市原、森、高橋、戸田の力と技は、緩急をつかいこなす多彩な展開を示し、まったくスキのない布陣だ。

守りの巧さも抜群で、シーズンはじめ不安のあったGK今井との連けいもよくなって来ている。ワクナガの厚い守りを崩すのは骨がおれるだろう。

上り坂のワクナガのチーム力と近森を欠く大崎では、今回はワクナガ有利とみる人が多くなって来ている。

両者にはげしい斗志を燃やすのは全日本学生のナンバーワン・日

・選・考・経・過・ 選考委員会(11人)は11月1日駒沢屋内球技場会議室で、荒川選考委員長ら10委員（うち3委員は書類出席、欠席1）によって開かれた。

男女ともすでに選考基準（候補チーム）が出揃っており＝本誌80号8頁、78号30頁参照＝その線にそって検討された。

男子は全日本総合（8月・和歌山）で優勝した大崎電気、国体（10月・岩手）で優勝のワクナガ薬品をまず満場一致で決めた。残り2チームは種別選手権を重視することになり、その原則のなかから最初の協議で新居浜工（愛媛・全日本高校優勝校）全大阪高校（国体高校優勝）が見送られた。

つづいて三景（東京・全日本実業団2位）が落ち、学生界の日体大芝浦工大（ともに東京・全日本総合3位）、埼玉教員ク（全日本教職員優勝）、全愛知（国体一般男子2位）の4者が残された。原則論から全日本学生選手権優勝校（11月24日—28日大阪＝別掲）を推すこととし次に埼玉教員クが決まった。同クに代えて日体大を決め、学生界にもう一つワクを廻す案や全愛知の抜てき案も出されたが〝種別〟の基本線が守られた。

女子は選考に先立って無資格ながら今シーズン進境いちぢるしい東京重機（東京）を候補へ追加する提案があり8対1（委員長末投

体大（東京）。

全日本学生（11月・大阪＝10頁参照）で文句なしの3連勝を飾り絶好調。北川監督は夏の全日本総合後からはやばやと照準をこの大会へ当てていたようで、選手と一丸のファイトは侮れない。

問題は、学生界では圧倒的な破壊力を示す速攻と空間プレー、それに本田、大村（ともにオリンピック候補）の両GKを要としたディフェンスが社会人3強にどこまで通用するかだろう。

斎藤（オリンピック候補）、松原、氷海、安達、串野、田中らの攻撃陣が持ち味を発揮すれば若さとスピードは参加チームずい一だけに一気に優勝も望める。

教員界で安定した地位を築きあげた埼玉教員ク（埼玉）は、左腕から威力のあるシュートを放つ北井をエースに、結城、高田、河住金子、高戸、上久保ら個人技とチームプレーを使いわける。勤務先がバラバラのため練習量では他チームに劣るようだが、手固く一戦必勝主義を狙っているのは無気味だ。GK高橋がビッグゲームほどその堅守にサエを見せるのもたのもしい。

この大会は年末の国内スポーツ界のビッグエベントとして年々ファンの関心も高まって来ている。今回の活況がオリンピック予選を控える新年へのムード高揚にも影響するわけで、国内最強チーム、最優秀プレイヤーの激突にふさわしい好内容を期待したい。

抜群の大洋デパート

女子はなんといっても大洋デパート（熊本）の試合ぶりが焦点である。43年8月の第20回全日本総合（長崎）以来、今秋10月の岩手国体まで出場した九つの全国大会にすべて優勝（注・昨年度は4大タイトル独占）という快記録をマークしており、この大会に勝てばあとは来春3月の全日本実業団（横浜）だけ、2年連続四冠王という大偉業はほぼ確定する。

大洋の強味はバランスのとれた攻守にある。毎試合10点平均の得点をたたきだす垂水―渡辺の〝黄金コンビ〟を主軸に、ベテラン枝尾の絶妙な配球力と米、三宅、島田らで組む攻撃陣は力と技の多彩な展開が武器。

小林、村中、蔵田ら後続の若手も順調に成長、選手層の厚さも抜群だ。他チームは今春主力選手の退陣が相次ぎ、国体あたりからようやくレギュラークラスのまとまりが見えはじめたばかり。大洋・井監督の自信と対照的に他チームの監督は不安な表情をみせる。

大洋は守りも強い。GK小原の防禦力と味方攻撃陣へのパスアウトの巧さはピカ一だし、枝尾の好リードによるFPのディフェンス力には定評がある。

今のところ大洋デパートに欠点は見あたらない。

他チームが勝機を見出すとしたら、捨て身の斗志が燃えた時だろう。大崎・福本監督、ビクター・池田監督も「一つのチームに2年もつづけて全国タイトルを独占されてはたまらない」とファイトをかりたてている。

大崎電気（埼玉）は全日本総合、岩手国体と連続して決勝で顔が合い4―11、6―16と退けられた。木幡、新島、寺尾、三浦、真田長谷川、佐藤らの速攻がリズムにのればチャンスも生まれよう。昨年の大会では巧く自分のペースに大洋を誘いこんで一矢を報いているだけに期待したい。

〝打倒・大洋〟の可能性がいまいちばんあるという点では日本ビクター（茨城）を筆頭にあげてよいと思う。今春発足したばかりのチームで総勢わずか9人だが、主力は昨年まで三菱鉛筆（神奈川＝廃部）で活躍していた蓮見姉、阿部、江川、八重樫、阿保、滝GK吉田と新人の蓮見妹、大塚ら。この大会に今シーズンの目標を置いていたと伝えられるだけにどのような試合を見せるか興味深い。ビクターにとって緒戦の対大崎（注・全日本総合では大崎9―7ビクター）がヤマで、ここで波にのるようだと大洋デパートも楽観は許せない。

初出場の全日本学生選抜軍が実業団3強にどう挑むかもみもの。〝勝ち策戦〟をたてて思い切った試合をみせて欲しい。

（写真はいずれも光島磯雄氏撮影）

2年連続4冠王の偉業を目指す大洋デパートは今大会も本命だ
～国体決勝。対大崎電気戦から～

票、欠席1）で可決。9チームが対象となった。

破竹の快勝をつづける大洋デパートは満場一致、全日本総合・国体2位の大崎電気もすぐに決定した。残り2チームについては大激論、水海道二高（茨城・全日本高校優勝校）、全大阪高校（国体高校優勝）がまず落ち、つづいて田村紡（三重）が今年度での実績不足で脱落。美和ク（東京）も全日本総合後の資料不足で惜しくもはずされた。全日本学生優勝校については普及のためにという支持派と実力に疑問をもつ意見に分かれたが、田中滋委員からの新提案（書類）「全日本学生選抜軍の編成」を協議、田中秀委員も全日本学連理事長の立ち場から「選ばれれば強チームを編成する」ことを約したため、同チームを候補に認めた。

最終段階に入って議論は容易にまとまらず、結局、日本ビクター全日本学生選抜、東京重機の三者から投票で二チームを選び、一チームを補欠へまわすことになった荒川委員長を除く6委員が2チーム連記で投票、書類出席の3委員による有効投票（2票）を加算した結果、日本ビクター……5、全日本学生……5、東京重機……4となり、最後の二チームがようやく決まった。日本ビクターは今シーズン結成されたばかりだが、旧三菱鉛筆勢で固めた選手の能力が高く買われたもの。全日本学生選抜は昨年補欠にとどめられており宿願の〝入選〟だ。

"アジア連盟"問題に着手
日本協会が規約草案を作成

日本協会では、課題となっていたアジアハンドボール連盟（AHF・仮称）問題について、在京常務理事を中心とした特別委員会を編成、対しょすることになった。

これまで、まったく慎重な態度をとり、時期尚早論さえあった日本協会の態度急転は、韓国協会、台湾協会のアジアハンドボール界確立に対する熱意が想像以上なことに起因している。今回の日韓社会人交流で訪韓した荒川理事長、田中常務理事両氏も韓国協会役員からオリンピック予選問題にからませてかなり強硬な申し入れを受け、結局、次の3点を両氏も承諾これによってアジアハンドボール連盟問題は日本協会内部でも大きなステップを踏みだすことになった。

―日韓両国のアジア連盟に対する了解事項―

一、オリンピックアジア予選について話し合われる来春の会議開催の際、台湾協会代表も招請しアジア連盟設立準備委員会を開く

一、日本が規約の草案を英文と日本文で作成し、準備委員会前に各国へ発送する

一、審判講習会の原案を作成し、その際発表する（注・第1回審判講習会は46年4～5月が望ましく韓国側は会名を「亜細亜地区」とするよう要望。）

盟主としての苦しい立ち場

〈解説〉AHF問題に対してはとんど白紙の態度をとりつづけて来た日本協会にとって、今回の"日韓協定"はかなり負担が重いといわねばならない。

応急処置として在京常務理事による特別委員会で3点の具体的な作業を行い、12月19日に予定される月例常務理事会にかけ、全国評議員、理事に対しては「事後承諾」をうけることになりそうだ。

国際ハンドボール界内に地域連盟はなく、発足すれば初の正式組織としてその活動に注目も集ろうが、活動している国が三～四ケ国のうちは必要に応じて各国が集ればよいという意見が支配的だった日本協会が、はたして韓国、台湾両協会を満足させるような"形"を打ち出せるかどうか。

しかし、オリンピック予選の実施にあたって、審判(判定解釈)問題のほかに調整しなければならぬテーマがあるのも事実で、韓国、台湾とも、日本をアジアの盟主とみこんでの要望だけに日本協会としても、慎重な態度が強く要望されよう。ここまで来たなら主導権をとって進もうというムードも執行部内に芽ばえはじめており、日本協会の今後の"方向"を注目したい。

（X）

来年2月・白花醸造（韓国女子実業団）来日

全日本実業団連盟の田中理事長は、日韓社会人戦のため訪韓していたが、帰国後「来年2月、韓国女子実業団・白花醸造チームを日本へ招き5試合を行う」と発表した。

日本協会も11月21日の月例常務理事会で承認、日韓両国の初の女子交流が実現することになった。

同チームは、韓国高校女子界の有力選手を集めた強チームといわれ、役員4、選手13名が2月14日来日の予定である。

今のところ日本側の対戦チームは大崎電気（第1戦・東京）、日本ビクター（水海道）、田村紡(四日市)、ブラザー工業（名古屋)の4試合がほぼ決まり、あと1試合を四国で行う予定。

外国の女子チームが来日するのは昭和43年秋の西ドイツ選抜軍以来2度目のこと。

（お詫び・本誌前号で白花酒造としましたのは白花醸造の誤りでした）。

来夏には梨花大も来日か

また、韓国協会は韓国女子学生チームを来年8月日本へ遠征させたいと希望している。

全日本学連では、6月に男子チームが恒例の交流で遠征するためと、8月では受け入れ体制がととのえられない理由で難色を示しているが、3年ごしの懸案でもあり6月に実現するよう検討している。場合によっては男女滞同で往来することを要望するようだ。

9月3日に関東地区で第1戦
スウエーデンとの日程内定

日本協会は来年9月全国各地で行う日本・スウエーデン国際親善試合の受け入れ準備を進めていたが、このほど開催地の申しこみを〆切り、日程原案を内定した。

それによると、9月3日の第一戦は横浜または東京、以後5日甲府、8日または9日東京、11日大阪、12日名古屋、15日四日市または熊本、18日あるいは19日に最終戦を東京または横浜で行う。

正式決定は12月19日。

全日本選抜を上半期に

全日本総合の冬季移行にともなう全日本選抜の取り扱いについて日本協会では、来年度（第18回大会）は6月25、26、27日の3日間東京体育館で行うことを決めた。

大会名は「NHK杯全日本選抜大会」となり、47年度以降は9月に開くよう検討する。

なお、来年度の大会は運営面でオリンピックアジア予選会のリハーサルとしたい意向。出場チームについては1月24日の全国理事会で協議されよう。

全自衛隊大会は5月に

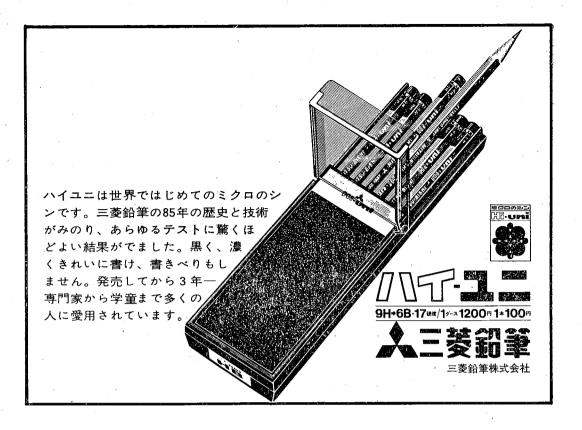
第3回全自衛隊大会は来年5月16、17日駒沢で行われる。当初は6月上旬に開く予定だったが、会場の関係で一ケ月くりあがった。

1月24日に全国理事会

日本協会では来春1月24日午前11時から東京渋谷の岸記念会館（体協）で現スタッフによる最終全国理事会を開くことに決めた。

このあと2月中旬または下旬に新役員(昭和46・47年度)による初の全国理事会を招集して新年度執行部の選出を行い定例全国評議員会に臨む予定である。

多角的な動きを
軽快に　鋭く……
Onitsuka Tiger
ハンドボールシューズならタイガー印です———
ハンドボール専用のシューズといえばタイガー印をおいてほかにありません。
軽くて 適度な弾力性をもった特殊成型底は　ほかでマネの出来ない《技術》です。スタート　ストップ　そして多角的な動きを自由自在にするスピーディなシューズ。この シューズがハンドボールのプレーを完全にするのです。

新しい「アマ規定」成る

日本体協

日本体育協会(体協)理事会は10月21日東京渋谷の岸体育館で開かれ、アマチュア委員会から答申されていた「アマチュアスポーツのありかた」と「日本体育協会アマチュア規定」を審議新しい規定を決め46年1月から適用することになった。

現行のアマチュア規定は昭和32年に改訂されたままのもので、時流にあわぬ個所も多くなり、かねてからその改正が望まれていた。

アマチュア規定は、基本的には各競技の国際競技連盟の規定が尊重されるわけだが、体協に加盟する競技団体としての最低の基準が定められたものである。

今回決定の「アマチュアスポーツのありかた」は広くスポーツを楽しむ人の心構えをかかげ、「アマチュア規定」はプロと一線を画した4章13条から成っている。この「アマチュア規定」に競技団体が違反した時は体協が注意を与え、場合によっては体協の主催する国体などの事業とオリンピックなど派遣競技会への参加を禁止されることもある。

日本ハンドボール協会では、すでに国際ハンドボール連盟（IHF）制定の「IHFアマチュア規定」に基いて「日本ハンドボール協会アマチュア規定」を昭和32年11月に設けているが、今回の体協の新規定を機として再点検することになり11月、12月の月例常務理事会で協議、そのあと全国関係者へ配布する予定。なお日本協会のアマチュア問題担当は荒川理事長がつとめる。

※本誌では次号（46年2月号）に体協・IHF・日本協会の「アマチュア規定」を特集する予定です。

ハンドボールなど実施

沖縄復帰記念競技大会

一九七三年（昭48）の沖縄復帰を記念して総合スポーツ大会が開かれることになり政府、文部省、琉球政府、日本体協、沖縄体協などがその実施について意見の調整を行っていたが、このほどその大要が次のように決まった。

会期は昭和48年の4月下旬から5月上旬、実施競技はハンドボール、陸上など21競技。参加人員は本土側約二千七百人、沖縄側約三百五十人の予定である。

競技の運営についてはさらに煮つめられるが、今のところ、各競技別に一般あるいは高校種目を割りふり、さらに本土側代表はそれをブロック別に分ける案が有力のようだ。ハンドボールは高校女子を行い、本土側代表は七校を選ぶことになりそうだ。

ブロック中学・クラブへの助成金交附要領決まる

日本協会総務企画部では10月の全国理事会・評議員会席上、荒川理事長が発表した「ブロック中学クラブ選手権への助成金交付」の構想にもとづいてその実施案を検討していたが、このほどその大綱を決め各都道府県協会へ連絡した。

それによると、助成金はクラブ及び中学のブロック選手権に交附され、クラブ選手権に対してはその初年度（第1回）の大会開催時に日本協会杯作成費として1万円が渡され、中学選手権に対しては毎年度1回3万円が交附されるほか初年度（第1回）の大会開催時には日本協会杯作成費1万円が加えられる。

いずれも、そのブロックの三分の二以上の都道府県から代表チームが参加していることが条件で、男女いずれか一方のみの場合は交附額は規定の半額となる。交附申請は毎年4月31日までに日本協会あて行うこととしている。

適用は今年の10月1日以降とされ、すでに11月1日名古屋で開かれた東海クラブ選手権に日本協会杯が贈られた。

国立北競技場の基本計画

東京都北区出井頭町に計画されている国立北競技場（仮称）の建設は、建設計画委の手によって準備が進められているが、このほど基本方針として市民が利用する体育施設にふさわしい規模、内容、配置、機械器具などに留意、12月中に工事入札、1年半の工事を経て47年夏に全面使用できるよう具体的な作業へ進むことが内定した。

現在の構想では体育館、サッカー場、屋外コートなどが建設されるが、体育館には約千四百平方米の体育室とプールを備え、体育室はハンドボール（1面）も行える。

あくまで市民スポーツ施設ということが強く打ち出されているため体育室には観客を入れることはまったく予定されていない。

「平沼体育館」が完成

〝日本スポーツ界の父〟といわれ日本ハンドボール協会の初代会長でもある故平沼亮三氏を記念した「平沼体育館」が横浜市三ツ沢公園に完成、11月4日開館式を行った。

同体育館は工費二億五千万円、長円型、地下・地上各1階の鉄筋コンクリート建て、千二百平方メートルの競技場をもち、フロアは合成樹脂とゴムが使われている。

「見せる場ではなく、いつ誰でも気軽にスポーツをする場を」という故人の遺志が尊重され観客席の収容力は204人分しかない。

日本協会では、来春3月の第11回全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）を同体育館で行うことになっており、改めて平沼初代会長の遺徳を偲ぶことにしている。

―保坂副会長に藍綬褒賞―

野田聖太郎氏（和歌山副会長）も

政府は11月10日、スポーツ界などに長年貢献してきた功労者65人へ紫綬・藍綬・黄綬褒賞を贈ることに決め発表した。藍綬受賞者のなかには日本ハンドボール協会副会長保坂周助氏（64）＝日本体育協会理事、日本ハンドボール協会評議員、神奈川県ハンドボール協会長＝と和歌山ハンドボール協会副会長野田聖太郎氏（64）＝和歌山県体育協会理事＝が含まれている。

台湾協会の首脳陣

IHF（国際ハンドボール連盟）の仮加盟国となった台湾協会（中華民国全国手球委員会）の執行部スタッフがこのほど次のように日本協会へ伝えられて来た（敬称略）

▽総幹事　陳金樹▽副総幹事　宋丙堂、温展洪▽秘書部長　簡曜輝▽競賽部長　林竹茂▽裁判部長　翁琳枢▽研究発展部長　陳華鐘▽総務部長　黄賢堅

本誌の次回発行は46年2月1日（83号）です。

日体大，同志社の野望くだき３連勝

第13回（女子第６回）全日本学生選手権は11月24日から28日まで大阪市中央体育館を主会場に男子32，女子12校が参加，トーナメントで争われた。男子は学生界最強の布陣を誇る日体大（関東）が，６年ぶりに決勝進出の同志社（関西）を後半一方的に攻めこみ快勝，３連勝を飾った。女子も日体大（関東）が東女体大（関東）からナンバーワンの座を奪い返し，２年ぶり５度目の優勝をとげた。なお来年度の大会は11月３日から５日間東京で行われる。

女子も日体大・全日本学生選手権

男子（32校）

桃山学院、法政を破る　仙台大も慶応に勝つ

▽１回戦

日体（関東）34（16-4 18-2）6 福岡教大（九州）
関学（関西）12（7-5 5-5）10 東京教大（関東）
立教（関東）22（8-3 14-3）6 岡山大（中四国）
大阪経大（関西）15（7-5 8-7）12 中京（東海）
早稲田（関東）23（1-2 12-2）4 名古屋大（東海）
大阪体大（関西）25（6-0 1-0：8-9 10-9）18 明治（関東）
日大（関東）16（12-7 4-6）13 山口大（中四国）
関西大（関西）24（3-2 11-0）2 東北学院（東北北海道）
芝浦工大（関東）41（27-6 14-5）11 愛知教大（東海）
仙台大（東北北海道）24（11-8 13-7）15 慶応（関東）
鹿児島大（九州）20（10-11 10-3）14 明星（関東）
桃山学院（関西）16（11-8 5-5）13 法政（関東）
同志社（関西）26（11-4 15-6）10 東北大（東北北海道）
甲南（関西）14（8-5 6-6）11 金沢大（北信越）
名城（東海）25（14-3 11-6）9 金沢工大（北信越）
中央（関東）35（20-2 15-5）7 長崎大（九州）

日大、関大をおさえる　日体大、中央ら順当に進出

▽２回戦

日体 22（12-3 10-3）6 関学
立教 21（14-5 7-3）8 大阪経大
芝浦工大 26（13-8 13-7）15 仙台大
桃山学院 24（15-7 9-6）13 鹿児島大
早稲田 22（10-4 12-4）8 大阪体大
同志社 21（11-3 10-3）6 甲南
日大 13（8-8 5-4）12 関西大
中央 20（11-2 9-6）8 名城

同志社、中央に勝つ　早稲田は日大に抽せんで

▽準々決勝

日体 19（10-7 9-3）10 立教

得	【日体】			【立教】	得
0	本田	GK		馬渕	0
0	大村	GK			
4	斉藤	FP	（審・井上・望月）	有永	3
5	安達			原本	1
1	串野			福田	0
3	氷海			吉本	1
2	松原			矢吹	0
0	高橋			菱形	0
1	佐藤			片山	5
3	亀谷			安井	0
0	田中			籾山	0
0	松岡				
19（1）		7MT		（3）	10

芝浦工大 30（14-6 16-3）9 桃山学院

得	【芝浦】			【桃山】	得
0	平野	GK		岸井	0
6	明石	FP	（審・井上・望月）	山口	2
8	大江			森本	1
6	木全			岡崎	1
6	新実			本	0
0	森			岡山	1
0	細江			山本	0
4	鈴木			土田	4
0	井出			佐藤	0
				中出	0
				西	0
30（0）		7MT		（1）	9

早稲田 17（11-20：20-02：85-76）17 日大

引き分け。抽せんで早稲田大の勝ち

得	【早大】		【日大】	得
0	山本	GK	内田	0
4	斉藤	FP	沢武	4
4	武藤		田中	4
1	高橋		宮川	2
3	島田		栗岩	0
2	岩永		松	3
0	長谷川		内山	1
3	加藤		細谷	3
0	伊谷		加藤	0
0	浦山		唯根	0
0	渡辺		佐久間	0
17（4）		7MT	（4）	17

歴代優勝校

回	年	男子
①	昭33	芝浦工大
②	昭34	芝浦工大
③	昭35	芝浦工大
④	昭36	芝浦工大
⑤	昭37	芝浦工大
⑥	昭38	立教
⑦	昭39	芝浦工大
⑧	昭40	芝浦工大
⑨	昭41	芝浦工大
⑩	昭42	立教
⑪	昭43	日体大
⑫	昭44	日体大
⑬	昭45	日体大

〔女子〕

回	女子
①	日体大
②	日体大
③	日体大
④	日体大
⑤	東女体大
⑥	日体大

同志社 19（12－4、7－8）12 中央

得	【同大】		【中央】	得
0	岩田	GK	望月	0
8	中野	FP（審・狩野、小西）	植田	4
5	牧野		中野	0
2	中井		武部	3
1	阪野		佐藤要	4
3	松井		佐藤光	0
0	水野		小井土	0
0	横川		佐々木	0
0	富田		花輪	1
0	藤井		白石	0
0	中西		塩田	0
19（2）		7MT		（1）12

同大、芝浦工大も降す

▽準決勝

日体 16（7－6、9－3）9 早稲田

得	【日体】		【早大】	得
0	本田	GK	山本	0
1	松原	FP（審・狩野、小西）	斉藤	4
3	串野		武藤	0
3	安達		島田	2
0	田中		岩永	0
4	斉藤		浦山	2
3	氷海		高橋	1
0	亀谷		長谷川	0
2	高橋		渡辺	0
0	佐藤		伊谷	0
0	松岡		加藤	0
16（2）		7MT		（0）9

同志社 14（4－3、10－8）11 芝浦工大

得	【同大】		【芝浦】	得
0	岩田	GK	平野	0
2	中井	FP（審・井上、望月）	鈴木	0
5	中野		明石	0
0	阪野		大江	3
2	松井		木全	1
0	水野		新実	3
5	牧野		森	3
0	横川		井出	0
3	富田		細江	1
0	藤井			
0	中西			
14（0）		7MT		（2）11

3位に芝浦、4位早稲田

▽3位決定戦

芝浦工大 19（8－4、11－5）9 早稲田

得	【芝浦】		【早大】	得
0	平野	GK	山本	0
1	大江	FP	斉藤	2
2	木全		武藤	2
5	新実		高橋	0
0	鈴木		島田	2
2	森		岩永	1
0	井出		長谷川	0
0	渡辺		加藤	1
8	明石		伊谷	0
1	細江		渡辺	1
			浦山	0
19（2）		7MT		（1）9

後半一気の速攻決めた日体

同志社、最初の2点に終る

▽決勝

日体 15（4－2、11－0）2 同志社

得	【日体】		【同大】	得
0	本田	GK	岩田	0
4	斉藤	FP	中井	1
2	安達		中野	0
4	串野		阪野	1
0	氷海		松井	0
3	松原		水野	0
2	高橋		牧野	0
15（0）		7MT		（0）2

抜群、日体のチーム力

【男子後記】　参加校を32におさえた初の大会。日体大の優勝（3連勝）は文句なしだった。すぐれた脚力を存分に利用しての速攻、セットからの多彩な変化、それに得意のスカイプレー…。柔軟なその攻撃力は抜群である。

さらに守りの固さ。本田、大村と二人のオリンピック候補を揃える豪華なＧＫ陣を要にＦＰ勢の守備力も圧倒的なものがあった。

攻防両面で持てる力を発揮させ臨機応変の策戦を展開した北川監督のベンチワークも特筆されてよいだろう。

同志社の健斗も鮮か。中央、芝浦を連破しての決勝進出は主管した関西学連の意気ごみの象徴ともいえ大会を大いに盛りあげた。

中井を軸に中野、松井、新人の牧野らがどの試合も前半から自分のペースに相手を誘いこんで巧妙なセットプレーからポイントをあげていた。決勝では日体大ディフェンスに中央部をガッチリ固められ、前半3分2—0と先制しながらそれ以後タイムアップまで57分間無得点に終ったあたりあと一つスピード不足を感じる。今後の課題だろう。

この両校を除いては各校とも迫力に欠けた。

有力候補とみられた中央、芝浦は、同志社の術中におちいり、よいところなく敗退、ダークホースと期待された法政も1回戦で桃山学院の斗志の前にあっけなく屈した

むしろ、4位に留ったものの早稲田が武藤、岩永らの思い切ったプレーで久々に伝統の豪快さを示したのが目立った。

昨年あたりから学生界のレベルダウンがささやかれているが、この大会でもその流言を残念ながらはね返せなかったようだ。

その一因に各校のチーム力不安定をあげたい。波の上下が激しすぎるのだ。本当の意味のたくましさがないのである。

前評判の高かった中京、大阪経大、大阪体大、名城あたりがあっさり敗れてしまうのも結局はそうした欠点があるからではなかろうか。

慶応を破り、芝浦と激しくぶつかりあった仙台大の活躍や、鹿児島大、山口大の元気なプレーなど明かるい話題ももちろんあったのだが、このままでは学生界の前途は極めて暗いというほかはない。関係者——とりわけ各校ＯＢによる指導陣の研究意欲に奮起を促したい。

（駒沢球治郎）

女子（12校）

一方的な試合ならぶ

▽1回戦

日女体大（関東）21（13－1、8－2）3 大阪教大（関西）

中京女（東海）22（11－1、12－0）1 武庫川女大（関西）

中京（東海）15（5－0、10－0）0 夙川短大（関西）

甲子園（関西）18（10－1、8－2）3 東京学芸大（関東）

日体、後半に勝負決める

大体大は中京女大を逆転

▽準々決勝

東女体大（関東）7（4－2、3－1）3 日女体大

大阪体大（関西）9（2－3、5－4…0－1、2－0）8 中京女

東京教大（関東）5（2－1、3－3）4 中京

日体（関東）10（2－2、8－3）5 甲子園

東教大の善戦も及ばず

▽準決勝

東女体大 8（5－1、3－2）3 大阪体大

得	【東女】		【大阪】	得
0	阪野	GK	戸谷	0
0	松田			
2	堀江	FP（審・柳井、藤本）	石川	0
0	中島		玉岡	2
0	水上		大島	0
0	高橋		岡	0
4	川井		森崎	1
1	阿部		堀川	0
1	鈴木		周防	0
0	勇次		春名	0
0	宮ヶ原		寺脇	0
0	屋良			
8（0）		7MT		（3）3

日体 6（5－1、1－3）4 東京教大

得	【日体】		【東教】	得
0	秋間	GK	黒田	0
			松井	0
0	高嶋	FP（審・辻、藤田）	渡辺	0
1	永田		韮沢	2
1	赤塚		岡田	2
0	島田		継	0
1	福田		山本	0
1	小貫		坂倉	0
0	佐藤		川島	0
2	木村		畑中	0
0	光森		橋本	0
0	岩本		松本	0
6（1）		7MT		（1）4

関東勢、3位までを独占

▽3位決定戦

東京教大 11（6―2、5―3）5 大阪体大

得	【東教】		【大体】	得
0	黒田	GK	戸谷	0
0	渡辺	F.P	石川	0
4	韮沢		玉岡	1
2	岡田		大島	2
4	継		岡	1
1	山本		森崎	0
0	坂倉		堀川	0
0	川島		周防	1
0	畑中	（審・中根 小西）	春名	0
0	橋本		寺脇	0
0	松本			
11	（1）	7MT	（0）	5

東女体大の連勝ならず

▽決勝

日体 7（2―2、5―2）4 東女体大

得	【日体】		【東女】	得
0	秋間	GK	松田	0
			坂野	0
0	高島	FP	中島	0
1	永田		高橋	1
0	赤塚		堀江	1
2	島田		川井	1
2	福田		水上	1
2	小貫		阿部	0
			鈴木	0
7	（0）	7MT	（2）	4

スピード感まだ不足

【女子後記】 予想どおり日体大―東女体大の対決となり、日体大が昨年の雪じょくをとげた。

東女体大は秋の関東学生同様途中まで優勢に試合を進めながら残り10分間に相手の速攻をうけて押し切られてしまった。日体大の自信勝ちといえる。

両者にからむとみられていた甲子園と中京は善戦しながらも、もう一つ自己の力を出し切れなかった。

東京教大の進境が目立った。着実に二強との差をせばめている感じだ。ズバ抜けたチームが一つ出るよりも実力伯仲で並んだほうが全般の力を引きあげる。

学生界全体の課題として実業団のレベルに一日も早く追いつくよう努力して欲しい。さすがに「インター・ハイ以下だ」などという酷評は聞かれなくなったが、まだまだスピード感に欠ける。

速攻を武器の日体大が優勝したのはその意味で意義があろう。

（駒沢球治郎）

全日本学生女子の陣容

全日本学生連盟は11月28日大阪で第17回全日本選抜選手権に出場する「全日本学生女子選抜軍」のメンバーを次のように決め発表した。

▽監督 藤原侑（日体大監督）、▽コーチ 高野亮（東女体大監督）、▽GK 秋間（日体大）、坂野、松田（以上東女体大）、▽FP高嶋、永田、福田、赤塚、小貫、島田（以上日体大）、堀江、川井、水上（以上東女体大）、中本（甲子園大）、安田（中京大）、近藤（中京女大）

〝五輪第2次〟と〝世界女子〟候補に 12月20日発表

監督・コーチ（女子）も年内に内定か

日本協会は、一年後にせまったオリンピック予選（46年11月・東京＝予定）と、第5回世界女子選手権（同12月・オランダ）に出場する代表選手の選考について検討を進めていたが、このほど次のように決めた。

オリンピック選手は現在の第一次候補選手16名（FP13、GK3）に1～3名を追加、第二次候補選手としてオリンピック対策部が推せんすることになった。第二次候補以降の選考については改めて協議される。第二次候補の初合宿は12月21日から26日まで東京で行われる。

女子の全日本選手（世界選手権候補）は本誌既報のとおり技術指導部内に編成された選考委員会（勝技術指導部長ら9名）によって約20名を推せん。46年1月下旬に強化合宿を行う。代表選手の決定期日は未定のまま。

男女いずれも候補選手名簿は12月20日の第17回全日本選抜選手権閉会式（東京体育館）で発表される予定。

なお、オリンピック予選に出場の全日本監督とコーチ、世界女子選手権の監督とコーチの人選について12月19日の月例常務理事会（東京）で協議することも決められた。

全日本男女の監督、コーチは「早期に決めるべきだ」「代表選手の最終決定と同時でもよい」という二つの考えがある。しかし、女子は技術指導部筋から強い要望があり年内内定の公算が濃い。

大学定期戦

◇第23回法政―関西大

法政 16（8―6、8―9）15 関西大

◇第3回日体―大阪体大

▽男子

日体 19（9―0、10―5）5 大阪体大

▽女子

日体 7（5―0、2―0）0 大阪体大

◇第9回中京―関西大

中京 19（10―1、9―5）6 関西大

一空群が2連勝飾る

海上自衛隊航空連合大会

海上自衛隊航空部隊連合ハンドボール大会は11月25、26の両日栃木県体育館に全国から11チームが参加してトーナメントで行われた。

レベルアップいちぢるしいという評判どおり、各試合とも見応えのある内容で熱戦がつづいたが、前回優勝の一空群（鹿児島）が、宇都宮教空群（栃木）、四空群（千葉）らの追撃をかわして2連勝を飾った。

▽1回戦（3試合）

二空群（青森） 15（9―3、6―4）7 三術校（千葉）

四空群（千葉） 20（9―2、11―6）8 鹿屋教空群（鹿児島）

小月教空群（山口） 17（8―3、9―4）7 大湊空（青森）

▽準々決勝

一空群（鹿児島） 31（14―3、17―5）8 二空群

四空群 21（8―3、13―10）13 二十一空群（千葉）

宇都宮教空群（栃木） 19（12―7、7―6）13 小月教空群

大村航空（長崎） 20（8―7、12―3）10 三空群（徳島）

▽準決勝

一空群 16（5―7、10―8 ： 1―0、0―0）15 四空群

宇都宮教空群 25（13―6、16―5）11 大村航空

▽3位決定戦

四空群 14（6―8、8―0）8 大村航空

▽決勝

一空群 17（11―6、6―10）16 宇都宮教空群

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸

田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号　５１２

盛況だった

日韓社会人交流

—愛媛ク2勝3敗に終る—

初の日韓社会人交流は、日本から愛媛ク（全日本実業団4位、西日本一般男子1位の住友化学菊本を主力に編成）が遠征して11月10日から17日まで韓国4都市で5試合が行われた。

各試合とも満員のファンが集まり盛りあがった雰囲気のうちに進められ、特にオリンピック予選の正式決定後でもあり韓国側各チームから出場した有力選手のシャープなプレーが注目された。

愛媛クは全員が初の海外遠征とあって固さがのぞき、2勝3敗と負けこしたが、初めての社会人交流を成功させるにふさわしいフェアな試合ぶりで健闘した。一行は11月18日大阪空港着の日航機で帰国。なお第2回交流は47年2月韓国チームが来日して行われる予定。

愛媛ク、後半の追撃遅し

日韓社会人交流第1戦は11月10日午後4時15分から釜山公設運動場（屋外コート）で釜山旅客自動車との間に行われた。観衆約二千

釜山旅客自動車 12（6−4、6−6）10 愛媛ク

【釜山】	得		【愛媛ク】	得
崔	0	GK	藤田（住化菊本）	0
金	0	GK	季原（住化菊本）	0
孫	1	FP	神代（住化菊本）	0
李	1	FP	伊藤（住化菊本）	1
朴	0	FP	金剛（住化菊本）	2
金	0	FP	長嶺（住化菊本）	0
朴	3	FP	加藤（住化菊本）	5
曹	5	FP	落海（住化菊本）	1
安	0	FP	平野（住化菊本）	0
車	2	FP	北山（住化菊本）	1
金	0	FP		
宋	0	FP		
	12	(1) 7MT (2)		10

○……立ちあがり愛媛クは得意のフォーメーションプレーから金剛が幸先よく先制点をあげたが、そのあとは慣れない判定にとまどい動きも固くなって、思うように攻めこめなかった。

釜山は、速いボール廻しのローリング攻法から、シュート力のある曹、朴に球を集めて来たが、愛媛クGK藤田が健斗、容易に得点を許さなかった。

しかし釜山は前半20分すぎから愛媛クのミスを巧みにひっかけて速攻、連続4ゴールを奪って優位に立った。

後半は両チームとも、持ち味を活かした攻守で一進一退をつづけたが、結局、愛媛クは前半終了前の失点をはね返せなかった。

釜山のフェアなプレーで気持のよい第1戦であった。

高麗セメント前半に優位

第2戦は11日午後5時から光州室内体育館で高麗セメントとの間に行われた。観衆約三千（超満員）

高麗セメント 13（8−4、5−5）9 愛媛ク

【高麗】	得		【愛媛】	得
姜義善	0	GK	藤田	0
金徳治	0	GK		
高泰玉	2	FP	神代	1
李佑春	2	FP	伊藤	0
全鶴喆	1	FP	加藤	6
安貞煥	3	FP	長嶺	2
趙判用	2	FP	落海	0
秋章云	3	FP	金剛	0
金椿	0	FP	平野	0
李昌秀	0	FP	北山	0
宣鍾喆	0	FP		
梁基明	0	FP		
	13	(0) 7MT (2)		9

○……8時間にわたる汽車旅行後のためか愛媛クの動きは鈍く、しかも三千をこす大観衆の熱気におされてボールが手につかない。

そのスキを高麗はついた。クイックモーションからのスタンディング、ロングで愛媛ディフェンスを突き破り10分4−0とリード。

前半なかばすぎから愛媛クもようやく立ちなおりを見せて反撃に移ったのだが、高麗GK姜のシャープな動きと、せまいコート（37×18ぐらいか）に速攻を活かせず点差は縮らぬままだった。

後半、愛媛クは再三好機をつかんだがコンビがあと一つ整わず、立ちあがりあっ気なく奪われた4ゴール差が最後まで〝負担〟になって終った。

（注）高麗セメントのメンバーのうち金徳治、梁基明選手以外の10人は昨夏、朝鮮大付高で来日。

愛媛ク　初勝利を飾る

第3戦は14日午後3時40分から全州高校体育館で高麗木材との間に行われた。観衆約二千

愛媛ク 10（6−3、4−6）9 高麗木材

【高麗】	得		【愛媛】	得
朴	0	GK	藤田	0
柳	0	FP	伊藤	2
金	0	FP	金剛	0
朴	0	FP	長嶺	1
権	0	FP	加藤	3
朴	1	FP	落海	1
金	3	FP	神代	0
李	1	FP	北山	3
李	4	FP	平野	0
許	0	FP		
	9	(1) 7MT (2)		10

○……前半6−3、後半20分9−6と順調にリードを奪った愛媛クに対して高麗は驚くべき粘りで追いあげ、後半29分9−9とした。

しかし愛媛クも29分35秒落海の劇的な倒れこみシュートが決まって10−9、鮮やかに遠征初勝利を印した。

愛媛クの立ちあがりは好調で加藤のロングシュートを口火に着々と加点、朴、金らの巧技を軸に攻める高麗の攻撃をGK藤田がみごとに防いで、久々に試合の主導権を握った。

愛媛クは後半も再三絶好機をつかんだのだが、ベテラン北山が冷静にゴールをあげたのに対し、他の選手はシュートの失敗が目立ち高麗の追撃をうけて苦戦を自ら招いたのは拙かった。

前半のGK藤田、後半の北山の健斗がなければ、勝負は所を変えていたかもわからず、終盤は冷や汗をかく試合展開だった。

接戦にせり勝った愛媛ク

第4戦は16日午後8時45分からソウルの奨忠体育館で東洋公社（仁川）との間に行われた。観衆五千

愛媛ク 20（11－10, 9－7）17 東洋公社

【愛媛】	得		【東洋】	得
藤田	0	GK	李錦求	0
		GK	金哲会	0
加藤	5	FP	李圭成	0
神代	3	FP	尹永都	2
落海	2	FP	金蓮泰	6
伊藤	3	FP	秋岩李	4
長嶺	2	FP	朴忠熙	4
北山	3	FP	晋章観	1
金剛	1	FP	孟正術	0
松井	0	FP	崔圭南	0
（住化菊本）		FP	朴英遠	0
		FP	許　勲	0
19	（1）	7MT	（2）	17

○……観衆の熱狂やせまいコートにもようやく慣れ、愛媛クの動きはのびのびとしていた。

開始早々伊藤が両サイドからたてつづけにポイント、有利に試合を進めた。

しかし東洋も秋の豪快なとびこみシュートがよく決まり、前半20分4－3と逆にリードした。

愛媛クはこのあたりからポイントゲッター加藤が当りはじめ再び試合のペースを奪い、長嶺の好技などあって点差をつけた。

後半は1点を争うシーソー・ゲームをくりひろげ、東洋は金のフリースロー・ローポイントなどで追んで来たが、愛媛クも神代、落海のシャープな動きを軸としたフォーメーション攻撃を決めてたえず免制、食い下る相手を振り切った。すでに2敗を喫しているだけに、「是が非でも勝たねば」の執念が大きな勝因である。

麻浦ク　安定の攻守示す

第5戦（最終戦）は17日午後8時50分からソウルの奨忠体育館で麻浦クとの間に行われた。観衆五千

麻浦ク 22（12－8, 10－9）17 愛媛ク

【麻浦】	得		【愛媛】	得
朴鈴水	0	GK	季原	0
竜煥鱗	0	GK	藤田	0
金光泰	1	FP	神代	0
高光錫	0	FP	伊藤	3
康忠根	2	FP	金剛	2
李雄一	2	FP	加藤	6
文奉南	2	FP	落海	1
安勝石	2	FP	平野	0
黄治範	7	FP	北山	5
李鍾範	6	FP	成行	0
趙昌浩	0	FP	（住化菊本）	
洪鍾範	0	FP		
22	（4）	7MT	（2）	14

○……最終戦、しかも今シリーズ最強という評判の相手。愛媛クは気力を充実させて臨んだ。滑りだしは好調で金剛、加藤のロングシュートが連続して決まり押し気味に試合を運んだ。

麻浦クも黄－李（鍾）のコンビを主力に多彩な攻撃をしかけ、守っては加藤をマーク、反撃の体制をととのえた。そして前半20分8－9から2本の7MTで得点、10－9と逆転に成功した。

後半になると麻浦は一気にスパート、強引なロングシュートをとばして20分には19－13と点差を開いた。愛媛クは、相手の激しい当りにあって切りこめず、北山のロングで追いこんだものの大勢をくつがえすまでにはいたらなかった。互角の戦況から後半10～20分に1－4と開かれたのが最後までひびいた。

西ドイツ流になった韓国球界

荒川清美団長（日本協会理事長）の話

どの試合も多数の観衆がつめかけ、熱狂的な声援を韓国チームへ送っていたのが強く印象に残った。

韓国の各チームは、今夏ナショナルチームが西ドイツのコーチを受けた影響が示されシュートフェイントやワンドリブルからの攻撃が巧い。彼らのもっている先天的なボールゲームセンスはこわい。

今夏来、たびたび問題になっているルール解釈のちがいは今回の場合、特に気になるケースはなかった。ただ競技場は規定よりせまいコートが多く愛媛クも準備はして来たもののやはりとまどわされた。釜山、全州に完成間近い大体育館があり、ソウルにも47年3月までには大きな屋内競技場ができるということだった。

韓国の実業団球界は今がいわゆる胎動期。各会社とも社長や重役が大変な意気ごみなので将来性は大いにあると思う。

各地で高校、中学が前座試合を見せたが中学のレベルが非常に高いのには驚ろかされた。

後評・上田　猛（愛媛クコーチ）

グンメルスバッハの招待見送り

日本協会では、46年4月に来日の希望をよせていた西ドイツの名門グンメルスバッハの招待問題を検討していたが、11月の月例常務理事会で見送ることに決めた。

同クラブは、ヨーロッパ屈指の強豪だが、経費全額日本側負担（約九百万円）という条件を満たすことが難しいため断念したもの。

次号（46年2月号）に日韓社会人交流リポートを特集。

基礎から高等技術・戦術まで——
連続写真を駆使して懇切に指導した決定版！

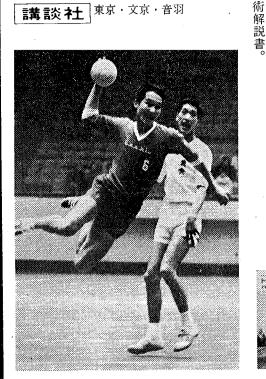
講談社
スポーツ
シリーズ

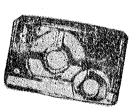
ハンドボール

〈考えながらプレーをしよう〉

竹野奉昭著
●六八〇円

数々の優勝経験をもつ、栄光のプレーヤーである著者が、その豊富な体験をもとに解説した、ハンドボールのすべて。現在第一線で活躍中の選手はもちろん、ハンドボール指導者、これからハンドボールを始めようとする中・高校生にも最適の、連続写真を使用したわかりやすい技術解説書。

講談社 東京・文京・音羽

プラスチックの総合メーカー

メッキは金属だけでは……
……ありません！

精密金型設計・製作
マイクロプラスチック成型
プラスチックメッキ

株式会社 宗形製作所

本　社	大阪府高槻市辻子241番地	TEL 高槻(0726)75−5551
東北本社	福島県福島市清水町字中谷地48番地	TEL 福島(02452)3−2812・2911
宗形工業化学株式会社	大阪府高槻市辻子252番地の1	TEL 高槻(0726)75−5767〜8
京都金型製作株式会社	京都市南区上鳥羽花名町19番地	TEL 京都(075)68−9701

秋季 学生界総記録

全日本学生選手権（インター・カレッジ）への出場をかけた各地の学生リーグ戦は熱のこもった好試合が連続、いぜん斯界における学生界の位置の大きさ、たくましさを示した。全般的に伝統校の後退と新興校の充実が目立っている。

○各地の優勝校○

地区		優勝校
北海道		北海道大
東北北海道		東北大
北信越		金沢大
関東	（男）	日体大
	（女）	日体大
東海	（男）	中京大
	（女）	中京大
関西	（男）	同志社大
	（女）	甲子園大
中四国		松山商大
九州		鹿児島大

北大、攻守に一日の長

北海道

◇第2回全道学生選手権　◇10月18日　◇北大体育館　◇3校

43年6月の第1回大会以来1年4ヶ月ぶりの開催。現在、道内には七つの大学でクラブあるいは同好会が活動をつづけているが、そのうち3校が出場、北大が攻守に一日の長を示して2連勝をとげた。

北見工大 11（7－4、4－6）10 小樽商大

北海道大 21（10－5、11－4）9 北見工大

北海道大 33（14－3、19－8）11 小樽商大

【順位】①北海道大②北見工大③小樽商大

東北大、3年ぶりに勝つ

東北・北海道

◇第15回東北・北海道学生選手権（春との通算第19回）　◇11月1～3日、◇東北大中央体育館ほか　◇9校

決勝リーグには予想どおりの顔ぶれが勝ち進んだ。優勝争いは第2日を終って2勝1分の東北大が先行、仙台大、福島大が追いかけた。第3日に入って福島大、仙台大とも1勝を積んだが、東北大も最終戦で福島大に快勝、3年ぶり3度目（春との通算5度目）の優勝を決めた。2位は前年1位の仙台大。今春1位の岩手大は東北大に引き分けた以外元気なく5位だった。

▽予選ラウンド

福島大 18－10 山影大

東北大 21－11 北海道大

東北学院 25－7 東北工大

仙台大 25－16 宮城教大

▽決勝リーグ

福島大 19（7－11、12－6）17 岩手大

東北大 18（9－5、9－3）8 東北学院

東北大 8（3－4、5－2）6 仙台大

東北学院 10（5－4、5－5）9 岩手大

仙台大 13（4－5、9－7）12 福島大

東北大 11（5－4、6－7）11 岩手大　引き分け

福島大 20（12－5、8－8）13 東北学院

仙台大 23（16－4、7－3）7 岩手大

東北大 25（14－7、11－7）14 福島大

仙台大 23（15－7、8－7）14 東北学院

【順位】①東北大3勝1分②仙台大3勝1敗③福島大2勝2敗④東北学院大1勝3敗⑤岩手大3敗1分

▽下位リーグ

宮城教大 18－9 東北工大

北海道大 20－8 山形大

北海道大 17－16 東北工大

東北工大 15－11 山形大

宮城教大 11－10 北海道大

宮城教大 11－10 山形大

【順位】⑥宮城教大⑦北海道大⑧東北工大⑨山形大

金沢大、金沢工大を逆転

北陸・信越

◇10月24、25日　◇信州大学体育館　◇6校

参加6校を2組に分け予選リーグのあと各組同位者で順位を争った。

優勝戦は2連勝を狙う金沢工大と金沢大の対戦となり、金沢工大が巧みな試合運びで制するかにみえたが粘る金沢大は後半14分に追いつき一気に逆転、切優勝した。

これまで9回優勝の富山大は試験のため欠場した。

▽予選リーグA組

福井大 23－11 金沢美工大

金沢工大 19－16 福井大

金沢工大 26－4 金沢美工大

▽同B組

本州大 17－8 信州大

金沢大 22－12 信州大

金沢大 19－8 本州大

▽5・6位決定戦

信州大 16（8－8、8－7）15 金沢美術工芸大

▽3・4位決定戦

本州大 28（19－10、9－9）19 福位大

▽優勝戦

金沢大 18（9－4、9－11）15 金沢工大

【順位】①金沢大②金沢工大③本州大④福井大⑤信州大⑥金沢美術工芸大

日体大、群抜く4連勝（22度目）

関東（男子）

◇10月5日〜11月9日 ◇駒沢屋内球技場（1、2部）、駒沢第一球技場（3、4部）◇男子1部8校、2部8校、3部8校、4部12校

1部は日体大が抜群の強みを示した。各校が激しい星のつぶしあいを演じるなかで、その安定した攻守は、他校につけ入るスキを与えず快勝、特に守りの強さはみごとだった。これで4シーズン連続22度目の優勝。2位以下では持ち駒不足の芝工大が健斗して2位に返り咲き、有力とみられた中央は序盤から不安定な試合ぶりで3勝をあげたにとどまった。法政は最終戦の対芝工大戦ですばらしい気力を示し、復帰の早大も5位にくいこんだ。部員難に悩む立教は有永（オリンピック候補）の奮戦で3勝をマーク、日大はGK陣の負傷、東教大は攻撃陣が不調で精彩を欠いた。

2部は、明治、慶応が同率となり優勝決定戦で慶応が勝った。慶応の優勝は8度目。前季2位の東大はまったく不振で全敗、3部へ落ちた。

3部は激しい星のつぶしあいが演じられ4校が4勝3敗で並んだが、前季2部の順天堂が6勝して初優勝。4部は参加12校を6校づつ2組に分けてリーグを行い、そのあと各組同位者同士で順位決定戦（2回戦制）を争った結果、一橋が成蹊学園にストレート勝ち、初優勝した。なお、東京農工大、山梨大両校が全試合棄権したのをはじめ、4部で15の不戦試合があったのは問題であろう。

▼1部

日体大 26（13―6、13―4）10 早稲田

中央 20（11―8、9―3）11 東京教大

芝浦工大 29（14―4、15―5）9 日大

立教 12（6―4、6―7）11 法政

法政 18（12―7、6―5）12 日大

日体大 18（11―5、7―3）8 東京教大

中央 18（11―8、7―10）18 早稲田　引き分け

【早大】	得		【中大】	得
山本	0	GK	望月	0
斎藤	4	FP	植田	3
武藤	4		中野	0
高橋	0		武部	0
島田	0		佐藤光	4
長谷川	0		佐藤要	0
岩永	2		小川	0
加藤	6		花輪	3
伊谷	0		佐々木	6
浦山	0		小井土	2
渡辺	2		白石	0
(2) 18		7MT	18 (3)	

芝浦工大 20（9―8、11―8）16 立教

中央 17（9―8、8―7）15 立教

日体大 22（11―7、11―2）9 日大

東京教大 13（5―9、8―1）10 法政

芝浦工大 26（12―8、14―8）16 早稲田

芝浦工大 28（15―6、13―7）13 東京教大

日体大 22（13―11、9―6）17 立教

法政 19（6―9、13―4）13 早稲田

中央 25（5―8、10―8）16 日大

早稲田 22（13―5、9―10）15 日大

立教 11（6―3、5―4）7 東京教大

中央 14（7―9、7―5）14 法政　引き分け

日体大 24（9―6、15―3）9 芝浦工大

【芝浦】	得		【日体】	得
平野	0	GK	大村	0
渡辺	0			
鈴木	1	FP（審・上久保、安藤）	斎藤	5
明石	1		松原	6
大江	1		安達	1
木全	4		串野	3
新実	1		田中	0
細江	0		氷海	5
森	1		高橋	4
井出	0		松岡	0
			亀谷	0
(1) 9		7MT	24 (0)	

日体大 17（8―1、9―6）7 法政

立教 33（17―9、16―4）13 日大

芝浦工大 27（15―8、12―8）16 中央

早稲田 17（10―8、7―6）14 東京教大

法政 15（7―9、8―5）14 芝浦工大

【芝浦】	得		【法政】	得
平野	0	GK	和田	0
鈴木	0	FP	西村	1
明石	4		荒井	9
大江	5		小林	1
木全	1		田上	4
新実	3		田中	0
細江	0		長谷川	0
森	1		小石川	0
			吉野	0
			中村	0
			川島	0
(3) 14		7MT	15 (5)	

日体大 21（10―9、11―4）13 中央

【中央】	得		【日体】	得
望月	0	GK	本田	0
植田	1	FP（審・斎藤、北井）	斎藤	3
花輪	4		安達	2
佐々木	1		串野	1
佐藤光	3		高橋	8
佐藤要	0		氷海	3
福田	1		松原	2
小井土	0		岩下	0
中野	1		池田	0
武部	1		田中	2
白石	0		亀谷	0
(1) 13		7MT	21 (3)	

▽7位決定戦

日大 17（7―8、10―5）13 東京教大

【東教】	得		【日大】	得
仲尾	0	GK	内田	0
高橋幸	0		唯根	0
松浦	4	FP	沢武	4
森	0		田中	3
高橋達	2		宮川	4
杉山	2		渡部	1
綿引	0		栗岩	0
横島	3		内山	1
土井	2		[illegible]松	2
中村	0		細谷	2
新美	0		飯泉	0
久下	0		加藤	0
(2) 13		7MT	17 (0)	

明治・慶応同率に終わる

▼2部

明治 18（10-7, 8-5）12 関東学院
慶応 21（9-8, 12-7）15 防衛大
東京学芸大 19（9-6, 10-7）13 国士館
明星 23（14-4, 9-6）10 東大
明治 22（11-9, 11-8）17 国士館
国士館 37（20-6, 17-4）10 東大
明星 23（15-4, 8-6）10 東京学芸大
慶応 23（12-5, 11-6）11 関東学院
明治 14（6-7, 8-3）10 防衛大
明星 16（11-6, 5-8）14 明星
東京学芸大 12（5-7, 7-5）12 防衛大　引き分け
関東学院 18（11-7, 7-5）12 東大
慶応 14（9-5, 5-3）8 国士館
防衛大 17（10-7, 7-9）16 関東学院
東京学芸大 25（6-11, 19-1）12 東大
明治 18（9-6, 9-7）13 慶応
国士館 20（13-10, 7-8）18 明星
明星 18（9-9, 9-4）13 防衛大
明治 24（13-5, 11-7）12 東京学芸大
国士館 23（10-3, 13-6）9 関東学院
慶応 27（15-6, 12-2）8 東大
防衛大 18（11-5, 7-4）9 東大
慶応 14（7-5, 7-7）12 明星
関東学院 14（6-4, 8-9）13 東京学芸大
明星 19（10-9, 9-8）17 関東学院
慶応 14（6-3, 8-7）10 東京学芸大
国士館 22（11-11, 11-3）14 防衛大
明治 36（16-5, 17-8）13 東大

▽1位決定戦

慶応 21（11-7, 10-10）17 明治

得	【慶応】		【明治】	得
0	守田	GK	藤森	0
10	川島	FP	安倍	2
2	宮越		住田	1
3	市河		浦野	5
2	堂之口		末田	5
2	福島		佐藤	2
2	名越		相本	1
0	岡田		村重	0
0	立田			
21（1）		7MT		（2）16

順天堂、混戦を抜ける

▼3部

武蔵工大 14-12 独協学園
千葉工大 棄権 順天堂
茨城 21-8 上智
東海 13-12 千葉商大
東海 15-14 上智
順天堂 27-12 独協学園
千葉工大 15-11 武蔵工大
千葉商大 21-15 茨城
順天堂 19-9 上智
茨城 19-15 千葉工大
武蔵工大 17-15 千葉商大
東海 26-15 独協学園
独協学園 18-8 茨城
順天堂 20-17 千葉商大
千葉工大 21-18 東海
武蔵工大 20-16 上智
独協学園 14-11 上智
千葉商大 17-13 千葉工大
順天堂 28-17 東海
茨城 11-6 武蔵工大
千葉工大 21-13 上智
東海 20-11 武蔵工大
千葉商大 22-19 独協学園
順天堂 22-19 茨城
独協学園 17-14 千葉工大
千葉商大 14-13 上智
順天堂 26-10 武蔵工大

【順位】①順天堂大6勝1敗②茨城4勝3敗（得失点差19）③千葉工大4勝3敗（11）④千葉商科大4勝3敗（8）⑤東海大4勝3敗（マイナス8）⑥武蔵工大3勝4敗（マイナス10）⑦独協学園大3勝4敗（マイナス18）⑧上智大7敗

一橋大が初優勝飾る

▼4部A組

都立大 25-14 流通経済大
成蹊 16-13 専修
明治学院 不戦勝 東京農工大
専修 15（分）15 都立大
成蹊 不戦勝 明治学院
流通経済大 不戦勝 東京農工大
成蹊 25-18 都立大
明治学院 18（分）18 流通経済大
専修 不戦勝 東京農工大
専修 25-9 明治学院
都立大 不戦勝 東京農工大
成蹊 不戦勝 東京農工大
専修 21-15 流通経済大
都立大 20-8 明治学院

【順位】①成蹊②専修③都立大④流通経済大⑤明治学院⑥東京農工大

▽同B組

千葉 13-10 青山学院
横浜商大 不戦勝 山梨
一橋 不戦勝 東京理科大
青山学院 不戦勝 山梨
千葉 20-15 東京理科大
一橋 25-14 横浜商大
横浜商大 23-11 東京理科大
千葉 不戦勝 山梨
一橋 28-6 青山学院
一橋 26-13 千葉
横浜商大 26-12 青山学院
東京理科大 不戦勝 山梨
青山学院 24-6 東京理科大
一橋 不戦勝 山梨
千葉 16-15 横浜商大

【順位】①一橋大②千葉大③横浜商大④青山学院⑤東京理科大⑥山梨大

▽同11・12位決定戦

東京農工大、山梨大ともに棄権のため不成立

▽同9・10位決定戦（2回戦制）

東京理科大 15-12 明治学院
明治学院 11-9 東京理科大

2試合のスコア合計24-23で東京理科大9位、明治学院10位

▽同位7・8決定戦

青山学院×流通経済大は流通経済大棄権のため青山学院7位、流通経済大8位

▽同5・6位決定戦（2回戦制）

都立大 24-16 横浜商大
都立大 24-18 横浜商大

都立大5位、横浜商大6位

▽同3・4位決定戦（同）

千葉 19-13 専修
千葉 16-14 専修

千葉大3位、専修4位

▽同1・2位決定戦（同）

一橋 18-11 成蹊
一橋 25-9 成蹊

一橋大優勝、成蹊学園大2位

東教大、辛くも残留

▼各部入替え戦

▽1～2部

東京教大（1部）13（4-5, 9-7）12 慶応（2部）

▽2～3部

順天堂（3部）31（17-8, 14-5）13 東大（2部）

順天堂大は1シーズンで2部に復帰。東大の3部転落は2度目。

▽3～4部

一橋（4部）31-13 上智（3部）

一橋大の4部昇格は初

男子1・2部順位は次頁に

日体大、23度目の優勝
東女体大、リード守れず

関東（女子）

◇10月19日〜11月1日　◇駒沢屋内球技場　◇5校

予想どおり8シーズン連続して日体大—東女体大の優勝争いとなった。東女体大は立ち上り好調に試合を進めたが日体大は後半鮮やかな速攻で一気に逆転、昭和36年秋復活以来19シーズン連続通算23度目の優勝を飾った。東京教大、日女体大の充実が目立った。

東京教大 18（8-4、10-0）4 東京学芸大
日体大 9（4-1、5-4）5 日女体大
日体大 9（3-1、6-3）4 東京教大
東女体大 20（11-1、9-1）2 東京学芸大
東女体大 6（5-2、1-3）5 東京教大
日女体大 16（12-0、4-2）2 東京学芸大
東女体大 18（6-1、12-3）4 日女体大
東京教大 6（1-3、5-3）6 日女体大
引き分け
日体大 15（8-2、7-3）5 東京学芸大
日体大 7（2-3、5-2）5 東女体大

得	【東女】		【日体】	得
0	坂野	GK	秋間	0
0	中島	FP	高嶋	0
1	氷上		佐藤	0
1	堀江		永田	0
0	川井		嶋田	0
2	鈴木		福田	4
1	阿部		小貫	2
0	勇次		岩本	0
0	宮ヶ原		木村	1
0	高橋		八木	0
			赤塚	0

7（0）7MT（1）5

【順位】①日体大4戦全勝②東女体大3勝1敗③東京教大1勝2敗1分（得失点差8）④日女体大1勝2敗1分（マイナス4）⑤東京学芸大4敗

関東学生秋季（男子1部）

	体	芝	中	法	早	立	教	日	勝	分	負	得	失
①日体大	…	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0	150	73
②芝工大	●	…	○	●	○	○	○	○	5	0	2	153	109
③中央	●	●	…	△	△	○	○	○	3	2	2	123	122
④法政	●	○	△	…	○	●	●	○	3	1	3	94	95
⑤早稲田	●	●	△	●	…	○	○	○	3	1	3	112	127
⑥立教	●	●	●	○	●	…	○	○	3	0	4	113	108
⑦東教大	●	●	●	○	●	●	…	●	1	0	6	79	116
⑦日大	●	●	●	●	●	●	○	…	1	0	6	86	160

【2部順位】①慶応6勝1敗②明治6勝1敗③明星5勝2敗④国士舘4勝3敗⑤東京学芸大・防衛大2勝4敗1分⑦関東学院2勝5敗⑧東大7敗

中京大、春の雪じよく

東海（男子）

◇10月18日〜11月3日　◇天神山球技場　◇1部6校、2部6校、3部3校

1部は5シーズンつづけて中京大、名城大の首位争いとなり、ともに危気なく勝ち進み最終戦で対戦、白熱した好ゲームを演じ前半同点から、中京大は後半、持ち前の速い攻撃をしかけ名城大を圧倒鮮やかに春の雪じよくをとげた。中京大の優勝は2シーズンぶり21度目。

2部は名工大が久々に活気のある試合ぶりをみせ初優勝、3部は大同工大が不参加で3校の争いだったが愛知大が勝ち2部返り咲きも決めた。

▼1部

愛知教大 11（4-2、7-7）9 南山
中京 25（13-8、12-5）13 愛知教大
名城 36（17-1、19-1）2 名大
岐阜大 19（8-2、11-3）5 南山
中京 29（11-3、18-2）5 名大
名城 21（7-7、14-2）9 南山
愛知教大 16（6-1、10-6）7 岐阜大
中京 22（7-5、15-3）8 南山
名城 16（11-4、5-8）12 岐阜大
名大 12（5-3、7-5）8 愛知教大
中京 26（16-5、10-3）8 岐阜大
南山 18（7-3、11-4）7 名大
名城 32（15-5、17-10）15 愛知教大
岐阜大 13（8-2、5-2）4 名大
中京 14（6-6、8-4）10 名城

得	【名城】		【中京】	得
0	竹内	GK	戸田	0
5	勝田	FP（審・角、松井）	立足	
0	畑野			
3	桑島			
1	飼沼			
0	福井			
1	後藤			
0	川口			
0	福田			
0	松井			

14（3）7MT（2）10

【順位】①中京5戦全勝②名城4勝1敗③岐阜大・愛知教大2勝3敗⑤南山1勝4敗（得失点差マイナス31）⑥引名古屋1大4勝敗（マイナス74）

▼2部

名古屋工大 15-11 中部工大
三重大 15-12 静岡大
名古屋学院 22-9 県立三重大
中部工大 19-15 名古屋学院
名古屋工大 17-9 三重大
静岡大 19-5 県立三重大
三重大 17-12 県立三重大
静岡大 19-18 中部工大
名古屋工大 21-9 名古屋学院
三重大 19-15 中部工大
名古屋学院 14-11 静岡大
名古屋工大 21-7 県立三重大
中部工大 22-10 県立三重大
三重大 21-13 名古屋学院
名古屋工大 23-9 静岡大

【順位】①名古屋工大5戦全勝②三重大4勝1敗③中部工大・静岡大・名古屋学院2勝3敗⑥県立三重大5敗

▼3部

愛知大 15-13 愛知工大
愛知大 21-19 滋賀大
滋賀大 26-17 愛知工大

【順位】①愛知大②滋賀大③愛工大

▼各部入れ替え戦

▽1〜2部

名大（1部）14（6-3、8-7）10 名古大（2部）

名古屋大は1部戦留

▽2〜3部

愛知大（2部）13-5 県立三重大（2部）

愛知大は2部へ復帰

東海（女子）

◇10月18日〜11月1日　◇愛知県体育館ほか　◇3校

愛知教大が新加盟、3校総当り2回戦制で争われた。中京、中京女がやはり強く、特に中京大は攻守のバランスがとれ中京女大を2試合ともつきはなして9シーズン連続10度目の優勝をとげた。

中京 16（7-2、9-2）4 愛知教大
中京 11（4-2、7-2）4 中京女
中京 24（15-0、9-3）3 愛知教大
中京女 22（8-0、14-2）2 愛知教大

中京女23（12―3 11―3）6愛知教大
中京10（8―1 2―5）6中京女

	【中女】	得		【中京】	得
GK	北岡	0	GK	佐野	0
				横井	0
FP	川北	0	FP	安田	2
	安井	2		窪田	1
	中平	0		石山	2
	大坪	0		稲井	0
	大崎	1		野口	2
	小崎	1		佐竹	1
	大城	0		田島	2
	酒井	0		斎藤	0
	近藤	2		蒲生	0
	林	0		宮田	0

（審・吉田・足立）

10（2） 7MT （0）6

【順位】①中京 勝ち点2（4戦全勝）②中京女 勝ち点1（2勝2敗）③愛知教大 勝ち点0（4敗）

新人戦で中京女大勝つ

◇第1回東海学生新人戦（11月・名古屋）

▽男子1回戦（3試合）
名城16―6名古屋工大
名古屋大8―6三重大
岐阜大17―6中部工大
▽同準々決勝
岐阜大23―11愛知工大
中京26―5南山
名古屋大23―10愛知大
名城19―12愛知教大
▽同準決勝
名城18―5名古屋大
中京24―9岐阜大
▽同3位決定戦
岐阜大15―7名古屋大
▽同決勝
中京16（7―9 9―6）15名城
▽女子1回戦（1試合）
中京15―5愛知教大
▽同決勝
中京女8（6―2 2―2）4中京

同志社 得失点差で優勝決める

関西（男子）

◇10月17日～11月1日 ◇京都市立体育館、大阪体育大体育館ほか ◇1部6校、2部6校、3部6校 4部9校

1部は3シーズンぶりで復帰の大体大が同志社に完勝する波乱の幕あけとなった。大体大はこれまで1部に2シーズン（昭43秋、44春）在籍したが10戦全敗しており宿願の初勝利を同志社から奪ったわけだ。

しかし、第2日以降同志社が完全に立ちなおり快勝をつづけ、一方、第3日に無キズで対戦した大経大×大体大は大経大が制勝、大経大は初優勝へ前進した。

第4日を終って大経大が4勝してトップ、同志社、大体大が3勝でつづいたが、得失点差では同志社33、大阪経大22、大阪体大11の順。

最終日はまず大体大が関学を破って4勝をマークしたものの得失点差は24にとどまり、この結果、最終戦の大阪経大―同志社戦で大阪経大が勝てば〝完全〟優勝、同志社が勝てば三校同率から得失点差で優勝ということになった。期待にたがわぬ熱戦を演じた末、同志社が後半に地力を発揮、大阪経大の宿望達成をさまたげた。

同志社の優勝は2シーズン連続15度目、秋季の優勝は41年来4年ぶりである。秋季リーグの1位はこれで3年つづけて同率という珍しい記録になった。

このほか、関学が関大・桃山学院をおさえて4位、5位には関大が辛くも桃山学院をかわして入った。

▼2部 甲南、神大をおさえる

2部は混戦模様だったが神戸大が4勝（1敗）をマークしながら規定で3勝2分の甲南と同率扱いとなり（勝ち2点、引き分け1点というポイントシステム）、得失点差で甲南が5度目の優勝を飾った。3部は追手門学院が抜群の攻守で全勝、2度目の優勝、4部は竜谷大が守りの固さで初優勝した大阪薬大は男女とも学園紛争で棄権、男子は4部へ落ちた。

なお、1部のリーディング・ゲッターは31点をあげた川上（関学）。

▽1部
大阪経大20（9―3 11―9）12関西大
関学12（6―5 6―2）7桃山学院
大阪体大17（9―5 8―8）13同志社

	【同大】	得		【大体】	得
GK	岩田	0	GK	逢坂	0
	三好	0			
FP	中井	7	FP	中田	2
	中野	1		中出	5
	増岡	0		桐山	0
	阪野	2		藤井	0
	松井	2		三宅	1
	水野	1		白柳	2
	富田	0		中村	3
	牧野	0		阪本	0
	横川	0		藤崎	4
	藤井	0		田中	0

（審・前田・橋谷）

17（2） 7MT （2）13

大阪経大24（10―6 14―9）15桃山学院
同志社26（13―6 13―6）12関学
大阪体大17（9―5 8―8）13関西大
関学17（8―6 9―8）14関西大

	【関大】	得		【関学】	得
GK	入江	0	GK	久岡	0
	神崎	0		岡本	0
FP	竹内	0	FP	山本	1
	小嶋	0		富永	3
	塩尻	3		大内	3
	向江	1		玉井	2
	宮松	6		川上	5
	横井	2		柴田	0
	伊奈	1		小山	0
	吉田	0		梨子木	0
	内田	1		木野	3
	玉石	0		吉本	0

（審・藤本・門前）

17（3） 7MT （1）14

同志社16（6―4 10―1）5桃山学院
大阪経大17（8―6 9―8）14大阪体大

	【大経】	得		【大体】	得
GK	森友	0	GK	宍倉	0
	山田	0		逢坂	0
GK	脇田	7	GK	中田	3
	清水	1		中出	2
	沢田	7		桐山	0
	貝原	0		藤井	0
	佐藤	0		中村	6
	橋本	1		阪本	0
	牛屋	0		藤崎	3
	奥川	0		三宅	0
	津川	1		田中	0
	穂積	0		白柳	0

（審・門前・福井）

14（4） 7MT （1）17

大阪経大18（10―5 8―11）16関学
同志社19（10―3 9―4）7関西大
大阪体大20（11―8 9―6）14桃山学院
大阪体大27（14―5 13―9）14関学
関西大8（2―3 6―4）7桃山学院
同志社14（5―5 9―2）7大阪経大

	【大経】	得		【同大】	得
GK	山田	0	GK	岩田	0
	森友	0		三好	0
FP	清水	3	FP	中井	0
	沢田	0		中野	7
	脇田	2		増岡	0
	貝原	0		松井	3
	佐藤	1		阪野	1
	橋本	1		牧野	3
	手屋	0		富田	0
	奥川	0		水野	0
	津川	0		横川	0
	穂積	0		藤井	0

（審・森・坂口）

14（1） 7MT （2）14

関西学生秋季（男子1部）

	同	体	経	学	関	桃	勝	負	得	失	差
①同志社	…	●	○	○	○	○	4	1	88	48	40
②大体大	○	…	●	○	○	○	4	1	95	71	24
③大経大	●	○	…	○	○	○	4	1	86	71	15
④関　学	●	●	●	…	○	○	2	3	71	92	
⑤関　大	●	●	●	●	…	○	1	4	54	80	
⑥桃山学	●	●	●	●	●	…	0	5	48	80	

【2部順位】①甲南3勝2分②神戸大4勝1分③京都産業大3勝1敗1分④京都大2勝3敗⑤立命館3敗2分⑥大阪大4敗1分

京　大 16（6 10 ― 10 4）14 立命館
神戸大 22（12 10 ― 11 5）16 大阪大
甲　南 11（7 4 ― 4 7）11 京都産大
引き分け
京都産大 15（9 6 ― 7 6）13 大阪大
神戸大 9（5 4 ― 4 4）8 京都大
甲　南 17（9 8 ― 9 8）17 立命館
引き分け
甲　南 31（17 14 ― 7 6）13 大阪大
神戸大 16（8 8 ― 7 3）10 立命館
京都産大 10（7 3 ― 5 3）8 京　大
大阪大 15（11 4 ― 1 14）15 立命館
引き分け
神戸大 15（11 4 ― 3 6）9 京都産大
甲　南 18（11 7 ― 7 8）15 京　大
京　大 19（14 5 ― 5 5）10 大阪大
京都産大 17（9 8 ― 7 6）13 立命館
甲　南 14（6 8 ― 6 6）12 神戸大

追手門、文句なしの優勝

▼3部
追手門学院 30―15 和歌山大
大阪府大 不戦勝 大阪薬大
大阪府大 26―8 和歌山大
近畿大 25―19 大阪外語大
近畿大 不戦勝 大阪薬大
追手門学院 19―13 大阪府大
大阪外語大 不戦勝 大阪薬大
和歌山大 22―20 近畿大
追手門学院 不戦勝 大阪薬大
和歌山大 22―20 大阪外語大
近畿大 20―17 大阪府大
和歌山大 不戦勝 大阪薬大
大阪府大 22―12 大阪外語大
追手門学院 34―9 近畿大
追手門学院 34―7 大阪外語大
【順位】①追手門学院5戦全勝②近畿大4勝1敗③大阪府立大3勝2敗⑤和歌山大2勝3敗⑤大阪外語大1勝4敗⑥大阪薬科大棄権

竜谷大が8戦全勝

▼4部
大阪工大 22―10 関西外語大
天　理 17―14 大阪教大
京都教大 30―11 大阪商大
大阪市大 30―12 京都工繊大
大阪工大 23―10 大阪歯大
京都教大 24―11 関西外語大
大阪市大 21―12 天　理
竜　谷 35―11 京都工繊大
大阪市大 16―9 関西外語大
竜　谷 20―10 大阪教大
京都教大 32―9 天　理
大阪工大 15―11 京都工繊大
竜　谷 17―6 関西外語大
大阪教大 11（分）11 京都工繊大
大阪市大 34―7 大阪歯大
大阪工大 22―7 天　理
京都工繊大 31―10 天　理
大阪市大 24―10 大阪教大
京都教大 20―9 大阪工大
竜　谷 26―7 大阪歯大
大阪市大 16―6 大阪工大
竜　谷 34―1 天　理
京都教大 29―14 大阪教大
大阪歯大 15―12 関西外語大
京都教大 21―16 京都工繊大
竜　谷 18―13 大阪市大
関西外語大 18―7 大阪教大
大阪歯大 20―13 天　理
京都工繊大 16―7 関西外語大
大阪歯大 19―16 大阪教大
竜　谷 19―9 京都教大
大阪教大 20―19 大阪工大
関西外語大 18―9 天　理
京都工繊大 19―13 大阪歯大
竜　谷 16―8 大阪工大
京都教大 15―13 大阪市大
【順位】①竜谷8戦全勝②京都教大7勝1敗③大阪市立大6勝2敗④大阪工大4勝1敗⑤京都工業繊維大3勝4敗1分⑥大阪歯科大3勝5敗⑦大阪教大2勝5敗1分⑧関西外語大2勝6敗⑨天理8敗

甲南、1部へ復帰決める

▼男子各部入替え戦
▽1～2部
甲　南（2部）15（6 2 ― 9 7）9 桃山学院（1部）
甲南大は1シーズンで1部へ復帰、桃山学院大の2部転落は昭和42年秋以来のこと

得	【桃山】		【甲南】	得
1	岸井	GK	貫野	0
		GK	松谷	0
1	山口	FP	三宅	4
1	森本	FP	吉田	0
3	岡崎	FP	鷲尾	0
0	堀本	FP	和田	2
0	岡山	FP	中村	1
0	山本	FP	浜岡	4
4	土田	FP	浦野	0
0	佐藤	FP	植原	0
0	中出	FP	二宮	2
0	西	FP	寺谷	1
9	（1）	7MT	（1）	15

（審・橋谷・菊野）

▽2～3部
追手門学院（3部）17（9 8 ― 8 5）13 大阪大（2部）
追手門学院大の2部昇格は初。
▽3～4部
竜　谷（4部）棄権 大阪薬大（3部）
竜谷大の3部昇格は初。

女子も得失点差 甲子園大が2連勝

関西（女子）

◇10月18日～11月1日 ◇京都市立体育館ほか ◇5校
甲子園大は最終戦で大体大のはげしい追いこみをかわし切れず引き分けとなり、辛くも得失点差で首位の座を守った。これで3連勝
甲子園、大体大と他の3校の実力差はかなり開き、一方的な試合が多かった。個人得点は春につづいて岩井（甲子園大）が33点でトップ。
甲子園 30（15 15 ― 0 0）0 武庫川女大
大阪体大 28（15 13 ― 4 2）6 大阪教大

大阪体大 15（7－3 8－0）3 夙川短大
大阪教大 12（9－1 3－1）2 武庫川女大
大阪体大 27（11－0 26－0）0 武庫川女大
甲子園 25（13－0 12－0）0 夙川短大
甲子園 31（20－1 11－2）3 大阪教大
夙川短大 22（11－1 11－0）1 武庫川女大
大阪教大 5（2－2 3－2）4 夙川短大
甲子園 7（1－4 6－3）7 大阪体大
引き分け

【大体】

		得
GK	戸谷	0
FP	石川	0
	玉岡	2
	大島	0
	岡	1
	森崎	1
	堀川	1
	周防	2
	春名	0
	寺脇	0
		7

GK　FP（審・橋谷　吉川）
7（1）7MT（0）7

【甲子】

		得
GK	柿田	0
FP	辻	0
	吉開	2
	中本	1
	篠原	1
	岩井	3
	和歌	0
	宮田	0
		7

【順位】①甲子園大3勝1分（得失点差81）②大阪体大3勝1分（61）③大阪教大2勝2敗④夙川短大1勝3敗⑤武庫川女大4敗
※大阪薬科大は棄権

松山商大、首位に返り咲く

中国・四国

◇11月7、8日 ◇広島県立体育館 ◇1部5校 2部5校

1部は混戦で春の優勝校山口大が松山商大に敗れ、波にのった松山商大はその後の3試合でも巧く試合を運び全勝、2位には広島大福山が入った。松山商大の優勝は2シーズンぶり3度目。

2部は予想どおり広島商大が勝ち春につづいて首位となった。

▽1部
松山商大 17（10－2 7－6）8 山口大
岡山大 18（10－8 8－10）18 広島大福山
引き分け
山口大 19（10－7 9－6）13 広島大
松山商大 16（7－6 9－8）14 広島大福山

【広大】

		得
GK	唐沢	0
	小西	0
FP	鶴田	0
	堺	2
	江藤	0
	小松原	4
	入江	1
	恒成	4
	磯道	3
	松ヶ谷	0
	山下	0
	中島	0
		14

GK　FP
16（0）7MT（0）14

【松商】

		得
GK	山本	0
	佐竹	0
FP	木村	0
	木原	1
	島本	4
	東	1
	大沢	3
	大山	1
	松浦	6
	赤松	0
	筒井	0
	上野	0
		16

広島大 24（15－7 9－5）12 岡山大
松山商大 15（7－3 8－2）5 広島大
広島大福山 12（7－7 5－4）11 山口大
松山商大 17（11－6 6－9）15 岡山大
広島大福山 8（4－4 4－3）7 広島大
山口大 21（10－3 11－6）9 岡山大

【順位】①松山商大4戦全勝②広島大福山2勝1敗1分③山口大2勝2敗④広島大1勝3敗⑤岡山大3敗1分

▽2部
広島工大 17－8 山口大工学部
近大工学部 27－12 愛媛大
広島商大 25－15 広島大工学部
近大工学部 27－11 山口大工学部
広島商大 26－15 愛媛大
広島商大 28－12 山口大工学部
近大工学部 17－10 広島工大
山口大工学部 18－15 愛媛大
広島商大 23－18 近大工学部
広島工大 23－12 愛媛大

【順位】①広島商大4戦全勝②近畿大工学部3勝1敗③広島工大2勝2敗④山口大工学部1勝3敗⑤愛媛大4敗

鹿児島大、春秋制はなる

琉球大、惜しくも2位に

九州

◇第20回九州地区大学体育大会 ◇11月1・2日 ◇福岡教育大体育館 ◇16校

2連勝6度目の優勝を狙う西南学院が1回戦で敗れる番狂せがあったほか、新進校の台頭が目立ち決勝は春季（第8回九州学生）優勝の鹿児島大と2年連続進出した琉球大が対戦、互角の戦況から前半優位に立っていた鹿児島大が押し勝った。この大会では2年ぶり2度目の優勝、春季を合わせると2シーズン連続3度目の制覇である。3位には長崎大がくいこんだ。

▽1回戦
琉球大 20（9－6 11－6）12 宮崎大
東海 19（12－5 7－4）9 久留米工短大
長崎大 25（15－2 10－2）4 大分大
熊本大 12（7－5 5－4）9 九州大
福岡教大 22（11－7 11－4）11 福岡工大
福岡大 11（7－1 4－8）9 熊本工大
鹿児島大 17（9－4 8－7）11 九州産大
熊本商大 16（8－7 8－8）15 西南学院
▽準々決勝
鹿児島大 17（11－8 6－4）12 福岡教大
熊本商大 17（6－11 11－5）16 福岡大
琉球大 28（13－4 15－3）7 東海
長崎大 21（10－13 11－6）19 熊本大
▽準決勝
鹿児島大 13（2－1 1－1 … 4－5 6－5）12 熊本商大
琉球大 21（11－5 10－5）10 長崎大
▽3位決定戦
長崎大 19（7－8 12－4）12 熊本商大
▽決勝
鹿児島大 19（9－9 10－7）16 琉球大

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

強めた「国内選手権」の性格

全日本総合、新システムへ

日本協会では来年度以降の全日本総合選手権について全面的な検討を加えていたが、小委員会の答申、さらには全国会議（理事会、評議員会）の協議などに基いて国内選手権としての性格をいっそう強めこのほど正式に次のような実施要領を発表した。

まず、開催期日は今年度までの夏（8月）から冬に移し、原則として12月上～中旬、室内で行うことになった。

出場チームは男子は現行から一気に半数の16チームにしぼり、これまで自由参加だった女子も12チームに制限された。出場資格は

	男子	女子
前年度優秀	2	1
全日本学連代表	5	2
全日本実連代表	2	5
社会人代表	2	1
高校界代表	1	1
全日本教職連代表	2	／
自衛隊代表	1	／
次年度国体開催県代表	／	1
開催地代表	1	1
計	16	12

と割り当て数が決められた。このワクは恒久的なものではなく、毎年2月の全国理事会で決定されることになっているが、来年度は上表の数字が適用される。このため各加盟団体の全日本選手権は11月末日までに終了するよう望まれ、これまで2月開催の全日本実業団選手権は初夏へ移行することに内定した。女子で国体の次年度開催県に代表を割り当てたのは注目され、高校界代表については、全国高体連ハンドボール部の協議が待たれており、年度によっては返上もあり得よう。

社会人代表（男女）の選出は近い将来全日本クラブ選手権が実施されれば問題はないが、それまでは国体の一般男女参加チームのなかから企業系チームを除いて推せんされることになると思われる。

競技の方法は本誌前号既報のとおり予選トーナメントのあと男子はベスト4、女子はベスト3によって決勝リーグを行う。この結果大会日程（総試合数30）は第1日男子1回戦8試合、女子1回戦6試合、第2日男子2回戦4試合、女子2回戦3試合～以上予選トーナメント～、第3日～第5日　男子決勝リーグ2試合、女子決勝リーグ1試合と固定される。

新システムの第1回となる来年の第23回全日本総合選手権は12月15日～19日(または8日～12日)に東京・大阪・名古屋のいずれかで開くよう日本協会が折しよう中。

将来は男女の開催地を別にすることも考えられている。

近森克彦選手の欧州球信 ①

11月3日にはやくも積雪をみた西ドイツは本格的な冬将軍の訪れです。

9月当地に着いた私は予定どおりハンブルグ・スポーツ・フエライン（HSV）に加わり、ハンドボールとドイツ語の勉強に明けくれています。

西ドイツはハンドボール王国と呼ばれるにふさわしく、上はブンデス・リガ（全国リーグ）から下は小学生のリーグまで、大きなピラミッドを造成しています。

一般男女のクラブは上からブンデス・リガ、レオギョナー、スタート…とあり昇格するには入れ替え戦にも勝たねばなりません。いちばん下部から最大目標のブンデス・リガまで上がるにはたいへんな年数がかかります。ブンデス・リガ所属の各クラブはチーム力を維持するため好選手を各クラブから引き抜くのでなかなか下部へ落ちないそうです。特に今年は各クラブとも外国から多くの選手を迎えているのが一つの特色といわれています。

例えばルーマニアからはかって世界選手権獲得の原動力になったモーゼルがTSVでトレーナー兼選手として、またグンメルスバッハにはドミトル（元ディナナモ・ブカレスト）、エッセンにはコスタケとイワネスクといった具合です。このほかユーゴ、オーストリアからも有力選手が来て、各クラブの大きな力になっているようです。

ブンデスリガは前期と後期に分かれ、11月21日から後期に入りますが私の世話になっているHSVは4勝2敗1分で前期北部リーグをトップで折り返し好調を誇っています。各試合ともその体育館の収容力いっぱい（一千～七千）のファンを集め熱狂のうちに日程が進められており、さすが本場という感じです。

さて、ヨーロッパ球界はこのところ国際試合がなく、恒例のヨーロッパカップがもっぱらの話題です。オリンピック予選でアジアに移ったというイスラエルが相変らずこの大会へチームを送っているのはどうもスッキリしません。

ナショナルチーム同士の対戦は11月末から活発になるでしょう。

来年久々に世界選手権が開かれることになった女子は、北欧4ケ国大会（ノルウェー優勝）をはじめ各国とも動きに活気が感じられます。東ドイツ、ソビエトへの評価が圧倒的に高く、世界タイトルもこのどちらかに輝やくのではありませんか。この両国を除いては実力に開きがなく日本も上位入賞の希望は大いにあります。

来月、西ドイツでもルーマニア、ユーゴを迎えて3国対抗が行われる予定で、おなじみのトレーナー、トルカ氏も多忙になって来ました。3年前来日して絶妙のプレーを見せたクリスタル・ミルターが先日公式試合出場数七〇〇と通算ゴール一〇〇〇点という快記録をマーク、ビッグニュースとして関係者やファンの間に伝はっています。

筆者は前全日本代表選手、オリンピック第一次候補選手芝浦工大—大崎電気でつねに主力として活躍。今夏8月渡独、名門「H・S・V」に加わり、近く日本人として初めて西ドイツの全国リーグ（ブンデス・リガ）に出場の予定。

中学校指導者講習会報告 ②

「新指導要領」について〈講演要旨〉

梅本二郎（文部省教科調査官）

最近の子供達をとりまく社会のなかで、考えさせられる問題がいくつかある。

近頃の子供達のからだの形態と機能のバランスが悪くなったということである。戦後の子供達のからだの大きさはめきめきと回復し今や戦前のレベルを上回るようになってきたが、からだの働きとしての機能をあらわす要素、例えば幅跳の記録は戦前とかわらないというのである。これはからだつきに比較して、からだの大きさが十分に生かされていないことをあらわしている。

第2に、からだつきについていえば都市化の傾向があらわれているということである。農村の子供はずんぐり、むっくり型であり、都会の子供はひょろ長型であったのである。

第3には中学校から高等学校への進学率が約80%になってきたということである。これは近い将来誰れもが高校へ進学し、高等教育を受ける機会をもつことになるということである。

第4に、子供達は身体運動をしなくなったのではないかということである。総理府の昭和44年度の調査からみても明らかなように、子供達に対しての運動をしますかの問に、運動をすると答えたものが46%、しないと答えたものが43%、わからないと答えた人は11%であったという、東京地方だけをみても運動すると答えたものは59%、しないと答えたものが27%、わからないというものが14%もあることである。

その理由として、遊び場がないから、勉強や塾があるので遊べない。テレビの方が運動よりも楽しいからというのである。

ところが生活の内容は変化してきているのである。例えば余暇時間についてみると、昭和40年を100としたとき、昭和60年には149と約50%も増大し得るのである。

大人の場合でも余暇時間の増大は日本ばかりの傾向ではないのであって、アメリカでは余暇時間の利用の点で、見るスポーツから、行うスポーツに変りつつあるという。余暇時間の増大は生活技術の面で、スポーツ運動が必要となっているのである。このような面から考えるとき、子供達はスポーツ運動の学習が必要であろう。

このような時点で指導要領の改訂が行われるわけです。今回の改訂の特徴は学年配当をはずしたことである。これは中学生の段階で発育がスパートし、個人差が大きくなることによるのである。個人差が大きいというのは地域差にもなってあらわれてくるので、学年配当という統一をせず、発育の段階に合せて指導をしてゆく、現場教師の判断にまかせるわけです。ですから、お互にしっかり勉強をしながら進めてもらいたいのです。

新指導要領の内容を少し説明すると、実技運動は体操、スポーツそしてダンスに分かれています。

体操は体力に焦点をあわせ、体力づくりを目指すということになっているが、ここでは基礎的動きを主体として、走、跳、投、押、引、泳を考慮し、現場指導の段階では身体部分の体操も無意味ではないとしている。

スポーツの内容は器機運動、陸上競技、水泳とした個人競技種目対人競技としての種目に格技をおき、集団種目として球技がおいてある。球技はバスケットボール、ハンドボールの中からいずれか1種目、それにバレボール、加えて男子種目としてサッカーが入っている。

これらは運動技術を高めながら体力を高めていくということで、技術を主とし、体力は従として扱うことにしている。

文部省が考える体力要素は次のようだとしている。

- 体力
  - 抵抗力
  - 行動力
    - 調整力
      - 柔軟性
      - 平衡性
      - 巧緻性
      - 敏捷性
    - 持久力
    - 筋力

知識を高めるために体育理論があります。体育理論は実技と結びつけることを主眼として展開させるようにしている。

保健の知識にしては三ケ年の中で2単位（70時間）であり、1年または2年のとき、あるいは2年または3年というように学年1単位を2年間行えば従来はよかったのであるが、時間数は同じ70時間を三ケ年に分割して扱うようにしたことである。

例えば三ケ年の間に9単位、従って各学年3単位づつの配分であるが、保健と体育を組合せた保健体育の時間表を考えてみると別表のようになる。即ち、1学年で実技を105時間とすると保健は20時間、2学年の実技を100時間、保健25時間、3学年は2学年と同時にすることである。

学校の1年間は35週開講するので、35時間というのは1週1時間

学年	I	II	III
体育	一〇五	一〇〇	一〇〇
保健	二〇	二五	二五

（単位は時間）

として時間表の上に乗ってくることになる。従って、20時間および25時間というのは、25時間中の5時間は実技の時間に実施するとして、3学年共通20時間の保健としてあらわれてくる。年間1週1時間としてはあてはまらず、15時間の半ぱな時間が出る。そこで、これを特別教育活動と組合せたらどうだろうかというのである。こうすることによって、年間計画が立てられるであろうとしている。

各種目についての取扱いを更に安全と関連づけて述べてみる。

器械運動では鉄棒、跳箱、マット運動、女子には平行棒も取入れることにしている。この種目は特に安全性を重視する必要がある。というのは、小学校で起る事故の40%が器械運動であり、中学校では33%を占めている。そして、その約半数が跳箱運動中に生じているのである。

陸上競技では競走がその中心となり、走高跳ではベリロールは扱わないことにする。走高跳の事故率は10%にも及ぶのである。

水泳ではスタート、ターンまで指導し、直接人命に関係する種目であるので、特に安全管理を忘れてはならない。

現在では中学校にプールを持っているというところが約33%にまで普及してきた。格技では基本技術、対人技術、試合の段階で指導される。導入の段階では基本技術を中心にし、指導の中心は対人技術に重点をおくことにしている。

球技ではゴール型として手で行うものにバスケットボールとハンドボールを配し、足を使うものとしてサッカーを入れてある。ネット型球技として、バレーボールを組込んである。

サッカーは男子種目であり、広い場所のない学校では実施しなくてもよいことになっている。

特別教育活動としてのスポーツ活動には全員参加をたてまえとしない。しかしながら全校生徒が同時に行うには施設が間に合わないというところもあろう。したがって分割指導をすることも考えられる。そのときには学年や学級をそれぞれ含めた集団で行うことが望ましい。また、指導者のことについではあるが、全教科の教師の参加を期待したいところである。

ハンドボール競技を採用する場合には怪我をさせないように、安全管理に注意して行う必要がある。しかしながら、ハンドボール競技を行う以上はハンドボールを好きにしてやるつもりで行うことが大切である。

最後に近ごろの社会傾向として教育活動中における事故と裁判について話をしておきたい。ここにいうところの裁判とは刑事的責任追求の裁判と補償請求のための民事裁判がある。刑事裁判である場合には管理体制とその責任の所在が追求されるのであるが、民事による裁判の場合には教育委員会を始めとして、校長や担当教官にまで、それぞれに補償金請求のケースが出ている。

このような事態は熱心な体育指導者の熱意をそぐことになりかねない。しかし熱心なあまりに、事故を起してよいというわけではない。十分に安全に心がけ初期の目的達成のために努力して下さることをお願いするものです。

（文責・石井喜八）

中学校学習指導要領「保健体育」体育分野抜すい

〔体育分野・内容〕

A 体操（略）
B 器械運動（略）
C 陸上競技（略）
D 水泳（略）
E 格技（男子）（略）
F 球技

(1) 次の運動によって球技の技能を養い、規則を守り、攻防のしかたを考えてゲームが出来るようにする。

▽バスケットボール（略）
▽ハンドボール

(ア) 個人的技能＝パス、ドリブル、シュート、ガーディング
(イ) 集団的技能＝速攻、カットインプレー、ポストプレー、対人防禦、地域防禦
(ウ) ゲーム～既習の技能を利用したゲーム～

▽バレーボール（略）
▽サッカー（男子）（略）

G ダンス（女子）（略）
H 体育に関する知識（略）

〔体育分野・内容の取り扱い〕

(1)～(5) いずれも略
(6) 内容のF＝球技＝については、次の事項について配慮するものとする。

(ア) バスケットボールとハンドボールについては、いずれか一つを選んで指導すること
(イ) サッカーについては運動場が狭く、じゅうぶんな指導ができない場合は、他の球技種目に代えることができること
(ウ) 第3学年においては、示された運動種目に代えてソフトボール、テニス、卓球、バドミントンを指導することができること
(エ)、(オ)、(カ)いずれも略

(7)～(12) いずれも略

【以上は中学校指導要領131頁～143頁から抜すいしたもの】

来年は5月に実施か

全国中学校指導者講習会

日本協会では来年度の全国中学校指導者講習会について検討していたが、5月下旬に「全日本審判員研修会」と前後した日程で開くことを第1案に、具体的な実施方法を研究することになった。

また、前回は全日本教職員連盟が中心となって講習会を進めたが来年度は日本協会が主体となることを確認した。担当は普及部。

普及部委員ほぼ揃う

日本協会普及部では各ブロックおよび各加盟団体から専門委員の選出を急いでいたが、このほど2名を残して12委員が出揃った。

▼普及部委員会▽部長　若崎重富▽委員　末政正勝(北海道)、遠藤健次(関東)、徳前啓人(北信越)、中根武彦(東海)、土井喜光(近畿)川崎秀雄(四国)、荒木時弥(九州)新垣健(沖縄)、久保義雄(全日本学連)、三浦公(全国高体連)、田中滋章(全日本実連)、斉藤和夫(全日本教職連)

初の審判更新

今年度から新制定の「公認審判員A・B級取得者更新」が12月1日から15日まで行われる。各都道府県協会に所属する両級審判員は2年毎に公認資格の更新が必要となったものである。更新料は300円。

連載・コーチシンポジューム報告 ③

3：2：1 システム

ヴラド・ステンツエル（ユーゴー）
竹野奉昭 抄訳
（オリンピック対策部コーチ）

今回は第一回に掲載した種々のディフェンスシステムのうち、今年の世界選手権で話題をよんだユーゴーの3：2：1守備システムをとりあげることにする。

☆ ☆ ☆

1図のようにエリアラインに3人がつき、2人がやや前に出、1人がフリースローラインのやや中の三角形の頂点にいる。これが基本形であり、攻撃のボールが中央にある時には、この形をとる。ボールが他の所にある時には、当然この形は変化する。

2図のように便宜上番号をつける。最後尾に位置する、3A、3B、3Cは同じ任務をもっており主としてポストプレーヤーをマークする。2Aと2Bは同じ任務をもち、前後の動きを良くし、ロングミドルシュートをマークするとともにエリアのプレーヤーの動きを封ずる。1は前後左右に動き廻りロングシュートのマークとエリアへのパスのインターセプトを主任務とする。以上が基本である。

このシステムの基本は3：3と5：1システムにある。3：3は十分な深さを5：1はエリアに対して強力である。この両者の長所を兼備した理想的なシステムとして考案したものである。

攻撃は多種多様である。そのすべてに対して完全なシステムということは考えられない。それの一つの解決としては、完全ではないにしてもより良い方法として、すべての攻撃に対して、ある程度対応できる柔軟さを備えていることが必要である。3：2：1はまずこの条件を満たしてはいるが、完全でないことは云うまでもない。不利な点としては、このままの形では、すべての攻撃に対して完全でなく、変化しなければならないことであり有利な点としては、どこにも大きなスキはないということである。そこで3：2：1は十分な変化を練習しておきさへすれば、まず理想的なディフェンスシステムということができよう。

ポジション毎の選手の特長

3A、3B、3Cは左右にすばやく動け、速いスタート、フェアに攻撃選手を個々にマークし、ポストプレーヤーの手からボールをカットする技にすぐれ、エリアからシュートを打たせないというのが任務の特徴となる。

2Aと2Bは前後のピストン運動にすぐれ、マークが完全にできフェイントなどの相手の動作にはつられず、インターセプトの能力反撃速攻のダッシュにすぐれていることが必要である。

1は前後左右の動き、フェイントにかからず、インターセプトと反撃のダッシュ能力を要求されるポジションである。

味方が攻撃する時には、1と2Aと2Bはサイドとポストに入る選手、3A、3B、3Cは遠くから打てる選手であることが望ましい。この形がとれれば、攻防の切りかえがきわめて有利になる。攻守兼備の選手はなかなかいないがこの形がとれるように努力することは必要であろう。

このシステムの動き

いかに攻撃が多種多様であっても、それに対応して変化するこのシステムの個々の選手の動きはきわめて単純である。

それは次の二点で決定される。

A、ボールをもっている攻撃側の選手の位置

B 相手の選手の位置

3図に中央の相手がボールをもっている場合を例示する。

1はボールにあたる。2Aと2Bは7・5mのところにいて、ボール所有者などのカットインとエリアへのパスをマーク、3Bはポストをマーク、次にポストに入ってくるものは2Aと2Bがチェックする。3Aと3Cはサイドへのパスをマークし、ポストプレーヤーの動きを見守る。

ボールが4図の位置に動いたならば2Aはフリースローラインでボールをもっているものをチェック、3Bは2Aの元いた位置に近づき、ポストをマーク、2Bはエ

リアに下がり、次にポストに入ってくるものをマーク、1はやや下がり気味になり、カットインのチェック、3Aと3Cはサイドをマークするとともにポストの動きを注意する。

5図のようにサイドがボールをもっている場合には、3Aはボールをもっているものをマーク、1はインターセプトを心掛け、3Cはエリアを横断するパスのインターセプトを他はエリアラインを守る。

6図のようにポストにボールが入った場合には、エリアのプレーヤーは常に二人のディフェンスが間にはさんでマークするのがこのシステムの特徴である。この場合はさんだプレーヤーはすぐにこれをピタリとマークし、動かさないようにする。ポストがボールをもつのは3A・3Cと3Bの間か、2A・2Bと3A・3Cの間か、2A・2Bと3Bの間かに限られるのであるから、コンビは常にとっておく。

このシステムの特長

三点ある。

一つはどのような攻撃に対しても安定している。というのは守備の重要な三要素、深さ、広さ、厚さを兼備している。また動きはくりかえしだけであるので、考える必要がない。

二つめは動きのオートメーションである。考えずに行動がとれるので、心理的圧迫感が少なく、より多く攻撃を考えることに費やすことができる。

三つめは、ボールがこちらの手に渡った場合、すぐに全員がそれを知ることができる点であろう。

このシステムの欠点

常に深さ、厚さ、拡がりを求め動くので体力的に消耗する。もう一つは深さと厚さを求める形でこのシステムを運用すると拡がりが得られない。逆に拡がりを追求すると厚さ、深さがおろそかになるこのシステムの場合には前者の傾向が強く、サイドがあきやすい。

普通のチームと対戦した場合にはまず有効であるが、非常に特殊なチームの場合には採用せずに他の形にしたほうが有利である。数人のポストプレーヤーで攻めるようなチームには6…0を非常に強力なロングシューターが複数いる場合には完全な3…3をとることが有利な結果をもたらすことであろう。

ワクナガ薬品順当勝ち

近畿実業団

各地の記録

東海、関東につづくブロック実業団選手権・第1回近畿実業団選手権は11月3日、8日の2日間大阪の大淀中に11チーム（男子のみ）が参加して開かれた。

国内最強の布陣を誇るワクナガ薬品（大阪）がさすがに強く4試合で116点を叩きだし文句なしの優勝を飾った。2位は堅実な試合ぶりを示した大山商会（大阪）。

▽1回戦（3試合）

ワクナガ薬品（大阪） 31（15－7　16－9）16 神戸製鋼（兵庫）

富士レジン（兵庫） 30（12－9　18－10）19 大阪ガス（大阪）

大山商会（大阪） 27（16－4　11－4）8 大阪機工伊丹（兵庫）

▽準々決勝

京都信用金庫（京都） 22（9－8　13－13）21 川崎重工（兵庫）

大山商会 30（13－6　17－2）8 美津濃（大阪）

富士レジン 38（13－2　25－3）5 日立マクセル（大阪）

ワクナガ薬品 27（15－6　12－9）15 丸善石油（和歌山）

▽準決勝

ワクナガ薬品 26（12－5　14－10）15 富士レジン

大山商会 24（10－8　14－8）16 京都信用金庫

▽決勝

ワクナガ薬品 32（17－9　15－9）18 大山商会

得	【ワク】		【大山】	得
0	今井	GK	川原	0
0	杉野			
0	市原	FP	中村	1
5	木野		奥川	6
0	早川		前島	3
6	戸田		佐藤	5
9	松井		山口	0
2	久保		梅尾	1
6	藤井		越智	0
4	菅		花谷	0
0	高橋		伊藤	2
0	森			
32（1）		7MT		（1）18

（審・丸岡、高倉）

名城ク、静岡城北ク勝つ

初の東海クラブ選手権

全国初のブロッククラブ選手権として注目を集めた第1回東海クラブ選手権は東海4県の代表男子16、女子6クラブが参加して8月23日（愛知県体育館）に男子1回戦と準々決勝、女子準決勝、11月1日（名古屋市体育館）に決勝までをそれぞれ行った。

男子はかつての世界選手権代表や、東西の学生界で活躍したプレイヤーが多数参加し元気な攻守を見せた。決勝は名城ク×鯱クの愛知同士の対戦となり、勝負をかけた後半、名城クが連続ゴールして快勝した。

女子は田村紡、大崎電気らに所属していたOGも出場。往年の全日本チャンピオンチーム静岡城北クが伝統の強味を示し初優勝を飾った。

▽男子1回戦

鯱ク（愛知） 23－20 清水橋ク（静岡）

岐阜西ク（岐阜） 25－17 名大三重OB（三重）

東海ク（愛知） 25－10 鵜の森ク（三重）

清見潟ク（静岡） 35－11 舟田ク（岐阜）

ファンシーク（岐阜） 29－22 たかあしク（愛知）

尾北ク（愛知） 24－18 天竜ク（静岡）

清商ク（静岡） 31－11 岐阜南ク（岐阜）

名城ク（愛知） 25－15 高田ク（三重）

▽同準々決勝

鯱ク 28（17－8　11－12）20 岐阜西ク

清見潟ク 19（10－4　9－5）9 東海ク

ファンシー・ク 23（11－8　12－11）19 尾北ク

名城ク 15（9－7　6－6）13 清商ク

▽同準決勝

名城ク 18（9－5　9－7）12 ファンシー・ク

鯱ク 15（4－2　11－5）7 清見潟ク

▽同3位決定戦

ファンシー・ク 23（13－12　10－5）17 清見潟ク

▽同決勝

名城ク 16（6－6　10－6）12 鯱ク

得	【名城】		【鯱ク】	得
0	吉田	GK	柴田	0
0	新海		窪崎	0
1	小川	FP	西尾	1
6	西脇		奥本	0
4	千葉		林	1
2	高橋		横井	1
0	横江		和保	0
0	大場		高橋	0
2	伊藤		金田	1
0	竹内		杉本	1
1	栗本		松浦	7
			斎藤	0
16（0）		7MT		（0）12

（審・山田、林）

▽女子1回戦（2試合）

名古屋ク（愛知） 15（9－3　6－6）9 津女ク（三重）

清水女高ク（静岡） 不戦勝 内海ク（愛知）

▽同準決勝

静岡城北ク（静岡） 16（8－1　8－5）6 名古屋ク

四日市ク（三重） 17（6－3　11－0）3 清水女高

▽同決勝

静岡城北ク 10（6－2　4－4）6 四日市ク

得	【静岡】		【四日】	得
0	山田	GK	渡辺美	0
3	久保田	FP	小林	1
0	鈴木悦		渡辺好	0
1	斎藤		渡部	0
0	黒川		金田	3
1	鈴木功		辻	2
5	小林		伊藤	0
			西脇み	0
			小崎	0
			西脇ル	0
			細野	0
10（0）		7MT		（1）6

（審・浅野、赤松）

鋼管、日本発条つきはなす

▼神奈川県秋季選手権（11月・横浜）

▽一般男子準々決勝

日本発条 23－9 翠嵐ク

防衛大 7－5 セントラル自動車

日進商会 32―11 J・H・A
日本鋼管 19―9 川和ク

▽同準決勝
日本発条 19―13 防衛大
日本鋼管 棄権 日進商会

▽同決勝
日本鋼管 12（6―6、6―5）11 日本発条

▽同女子1回戦（2試合）
上溝OG 16―14 川和OG
北鎌倉ク 不戦勝 市川崎OG

▽同準決勝
北鎌倉ク 8―3 横浜東OG
上溝OG 棄権 横浜南OG

▽同決勝
北鎌倉ク 14（5―1、9―5）6 上溝OG

▽高校男子準々決勝
一商 14―8 市川崎
新城 12―10 大和
鎌倉学園 12―10 法政工
神奈川工 15―11 慶応

▽同準決勝
一商 14―7 新城
神奈川工 18―10 鎌倉学園

▽同決勝
一商 16（6―3、10―1）4 神奈川工

▽同女子準々決勝
大津 4―3 南
二俣川 3―2 上溝
川崎 7―4 江南
桜丘 3―1 東

▽同準決勝
二俣川 4―2 大津
川崎 5―0 桜丘

▽同決勝
川崎 6（2―0、4―0）0 二俣川

千葉商大、県総合制す

▼第17回千葉県秋季総合選手権（11月・佐原高）

▽男子準々決勝
館空ク 10―9 千葉大
清水ク 26―9 住友千葉化学
小金高 16―13 八千代高
千葉商大 15―11 千葉工大A

▽同準決勝
館空ク 15―13 清水ク
千葉商大 17―14 小金高

▽同決勝
千葉商大 14（5―3、9―5）8 館空ク
千葉商大は初優勝

▽同女子決勝
佐原女高 8（5―2、3―3）5 東邦高
佐原女高は2度目の優勝

自衛隊勝田が初優勝

▼第20回茨城県（男子）総合選手権（11月水戸県営グランド）

▽準々決勝
自衛隊勝田 25―7 鉾田一高
麻生ク 20―10 石岡一高
茨苑ク 16―11 原子力研究所
コンドルス 28―19 竜ケ崎連盟

▽準決勝
自衛隊勝田 19―15 茨苑ク
麻生ク 23―13 コンドルス

▽決勝
自衛隊勝田 15（8―6、7―7）13 麻生ク

高校は土浦工と八郷

▼茨城県秋季高校大会（10月・鉾田一高）

▽男子準々決勝
下館一 10―8 笠間
麻生 26―6 磯原
江戸崎 10（分）10 竜ケ崎
抽せんで江戸崎高の勝ち
土浦工 14―5 土浦一

▽同準決勝
江戸崎 16―10 下館一
土浦工 13―12 麻生

▽同3位決定戦
麻生 27―11 下館一

▽同決勝
土浦工 14（6―4、8―3）7 江戸崎

▽女子準々決勝
八郷 11―4 笠間
石岡二 4―1 鉾田二
水海道 10―9 石岡商
麻生 7―5 水戸二

▽同準決勝
八郷 9―5 水海道
石岡二 6―3 麻生

▽同3位決定戦
水海道 5―2 麻生

▽同決勝
八郷 9（3―3、6―2）5 石岡二

女子で涌谷優位動かず

▼第20回宮城県高校新人大会（11月・仙台1高）

▽男子決勝トーナメント1回戦
古川工 14―8 仙台育英
仙台三 8―7 東北学院

▽同決勝
古川工 10（4―2、6―3）5 仙台三

▽女子決勝トーナメント1回戦
涌谷 13―3 古川商
古川女 3―2 祇園寺

▽同決勝
涌谷 16（8―3、8―3）6 古川女

奈良高専が優勝

▼奈良県民体育大会（10月・畝傍）

▽高校男子準決勝
奈良高専 15―7 正強
畝傍 6―5 榛原

▽同決勝
奈良高専 12（5―4、7―1）5 畝傍

中頭地域、琉大おさえる

▼第23回沖縄県民体育大会（11月沖縄）

▽男子1回戦（1試合）
琉球大 20―12 島尻

▽同準決勝
琉球大 40―13 沖縄大
中頭 20―17 那覇

▽同決勝
中頭 16（7―8、9―4）12 琉球大

▽女子決勝
琉球大 13（8－4 5－5）9 那覇

女子で青森西の好調つづく

▼第20回青森県高校秋季選手権（10月・柏木農）
▽男子予選リーグA組①七戸②鰺ケ沢③柏木農④青森
▽同B組①三本木②青森商③十和田工
▽同3位決定戦
鰺ケ沢 15－8 青森商
▽同決勝
七戸 18（10－3 8－7）10 三本木
▽女子決勝リーグ
光星 7－5 三本木
青森西 9－1 大湊
七戸 10－9 光星
三本木 3－1 大湊
青森西 10－0 七戸
光星 10－3 大湊
青森西 7－0 三本木
大湊 6－5 七戸
青森西 7－2 光星
七戸 8－0 三本木
【順位】①青森西4戦全勝②光星・七戸2勝2敗④三本木・大湊1勝3敗

小諸商いぜん強し

▼第3回長野県高校新人選手権（11月・北佐久農）
▽男子1回戦（1試合）
上田 21－5 坂城
▽同準決勝
屋代 10－5 佐久
上田 15－7 北佐久農
▽同3位決定予備戦
佐久 13－8 坂城
▽同位決定戦
北農 15－9 佐久
▽同決勝
屋代 14（8－2 6－2）4 上田
▽女子回戦（1試合）
城南 8－2 佐久
▽同準決勝
北佐久農 16－2 美須々丘
小諸商 18－0 城南
▽同位3決定予備戦
美須々丘 8－0 佐久
▽同3位決定戦
城南 10－2 美須々丘
▽同決勝
小諸商 16（6－2 10－4）6 北佐久農

武庫工、県兵庫工に逆転勝ち

▼兵庫県高校新人大会（11月・明石高）
▽男子準決勝
県神戸商 16－8 柏原
県兵庫工 15－10 市神港
武庫工 12－7 鈴蘭台
三田 11－9 小野工
▽同準決勝
県兵庫工 12－10 県神戸商
武庫工 25－6 三田
▽同決勝
武庫工 8（3－5 5－2）7 県兵庫工
▽女子準々決勝
夙川 21－2 神戸女商
県神戸商 13－7 園田
近大豊岡女 15－4 鈴蘭台
甲子園 6－3 明石
▽同準決勝
夙川 11－4 県神戸商
甲子園 5－4 近大豊岡女
▽同決勝
夙川 5（3－1 2－3）4 甲子園

男女とも初優勝

▼第17回宮崎県総合選手権（11月宮崎女高）
▽男子準々決勝
日南工高A 11－9 都城工OB
泉球会 30－11 都城工高
宮崎大 22－12 都城泉丘高
宮崎ク 18－17 日南工高B
▽同準決勝
泉球会 24－10 日南工高A
宮崎大 23－20 宮崎ク
▽同決勝
泉球会 22（12－5 10－8）13 宮崎大
▽女子準々決勝
都城泉丘高 20－8 都城西高A
泉球会A 9－8 宮崎女高
都城西高B 12－4 宮崎愛球会
小林商高B 7－5 泉球会B
▽同準決勝
都城泉丘高 7－4 泉球会A
小林商高A 5－2 都城西高B
▽同決勝
小林商高B 6（2－3 4－2）5 都城泉ヶ丘高

栃木は清国産業勝つ

▼第18回栃木県総合選手権（11月石橋高）
▽男子準々決勝
馬頭高A 18－5 烏山高B
清国産業 棄権 宇都宮工OB
石橋高OB 16－13 足利工高
海上自衛隊 15－14 国学院高B
▽同準決勝
清国産業 37－19 馬頭高A
海上自衛隊 棄権 石橋高OB
▽同決勝
清国産業 23（7－7 16－13）20 海上自衛隊
清国産業は初優勝
▽女子準々決勝
小山城南高 10－3 矢板中央高
栃木女高 24－2 馬頭高
国学院高B 22－2 足利女高
国学院高A 16－1 足利高
▽同準決勝
栃木女高 13－6 小山城南高
国学院高B 3－1 国学院高A
▽同決勝
栃木女高 6（2－3 4－1）4 国学院高B
栃木女高は15年連続優勝

実業団勢、上位占める

▼広島県一般秋季（男子）選手権（10月・修道高）
▽準決勝
三菱レ大竹 23－12 日本鋼管福山
日新製鋼呉 28－16 近畿大（呉）
▽決勝
日新製鋼呉 22－17 三菱レ大竹

・編・集・後・記・

□……オリンピック予選日本開催の公算がかなり濃いものになり、さらにアジア連盟問題も大きな前進をみせている。

日本協会の今後は、ますます重大なものになってくるだろう。

卒直にいって、国内体制がようやく固まったばかりで、国際問題へのり出すには、あと一、二年の日時が欲しい。

□……しかしスタートは切られたのだ。

来年は、文字どおり日本ハンドボール界の浮き沈みをかけた1年になるだろう。関係者一丸となる決意は？。誰かがやる、どうにかなるでは絶対にダメだ。

除夜の鐘とともに希望と気力にあふれた新年が明けることを期待したいものです。

□……11月末に開かれた全日本学生（大阪）の記事を盛りこむため今月号は発行が少し遅れた。

大会終了と同時に、全日本学連委員長・谷萩勉君（日体大）が電話で記録やメンバーを送ってくれた

「月刊」誌とはいえ、こういう時の編集部は新聞社なみだ。

ホットなニュースを少しでも多くというのがわれわれのモットー

読者各位も、あなたの周囲のできごとを〝くさらぬうちに〟送って下さい。1月は恒例で休刊、次号は来春2月です…。（杉）

日本ハンドボール協会編
「ハンドボール」第八十二号
昭和四十年六月一日 第三種郵便物認可
昭和四十五年十一月二十五日印刷 昭和四十五年十二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行所 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）